



教育DXを支える基盤的ツールの整備・活用事業
（教育データの利活用の推進事業）
成果報告書（教育委員会における実証について）

2026年3月31日

教育委員会における実証の概要

データセットの精緻化のため、個別支援/授業改善/自律的な振り返りと いったユースケースに係る教育データ利活用を行う自治体で実証を行いました

実証の概要

目的・進め方	内容
実証 (効果検証)の 目的	<ul style="list-style-type: none">◆ データセットの精緻化に向けて、各ユースケースについて、必要なデータ項目、見える化や分析方法、データ収集から利活用までの詳細なフロー等をブラッシュアップすること◆ 実証自治体に対しては、教育データ利活用の取組が<u>効果につながっているかを検証</u>するとともに、<u>より良い取組にするための示唆を出す</u>こと
実証自治体	<p>授業改善/個別支援/子どもの自律的な振り返りのユースケースに該当する自治体の中から、以下3自治体を実証対象に選定 実証自治体：</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 岐阜県岐阜市：ユースケース「学習・生活データを活用した個別支援」➤ 栃木県矢板市：ユースケース「学習データを活用した授業改善」➤ 鹿児島県長島町：ユースケース「学習・生活面の自律的な振り返り・改善」
進め方	<ul style="list-style-type: none">◆ 11月下旬～12月上旬：教育データ利活用の目的・取組内容を整理・現状の課題を整理 → 先日の聞き取りをもとに、事務局側でロジックモデルの叩きを作成。フィードバックをいただき修正◆ 12月中旬～1月上旬：整理した目的・取組内容をアンケート・ヒアリング項目に落とし込み・対象者を決定 → 事務局側で叩きを作成の上、フィードバックをいただき修正◆ 1月上旬～2月上旬：アンケートを実施 → 事務局側で設定したオンラインフォームでアンケートを実施◆ 2月上旬～2月下旬：ヒアリングを実施 → 事務局より、一部教職員へのヒアリングを実施（自治体によっては対面実施）◆ 2月下旬～3月：アンケート・ヒアリング結果をまとめ・示唆出し → 事務局にて取りまとめの上、今後の取組に反映できる点などディスカッション

岐阜県岐阜市における実証

岐阜市：健康観察データの利活用に関する実証

取組

- 岐阜市は、**子どもが安心できる教育相談体制づくり**を目的に、全小中学校で児童生徒の「からだ」と「こころ」の健康データを活用している
- 1日に2回（朝・夕）、アプリを通して児童生徒は「からだ」と「こころ」の状態を回答する。その結果は可視化され、こころの状態のスコアが低い、または前日より低下するといった変化が児童生徒にないかを確認することができる。そのため、**気になる変化が確認できた児童生徒への迅速な声かけ**につながっている
- 加えて、児童生徒は、相談したいことがある際、日中好きなタイミングで、教職員を指名し、「聞いてほしい」ボタンを押すことができ、SOSを出しやすい環境づくりにつながっている

実証

- 健康観察データの利活用により、教職員から児童生徒への支援や、教職員同士の連携等の**行動が変わったか**を教職員・児童生徒向けアンケートで検証した。アンケートは、全小中学校にて実施し、教職員1,104名・児童生徒23,195名より回答があった
- その上で、そのようなアクションにつなげるためには、**取組上、何がポイントとなるか**を小中学校1校ずつでのヒアリング、行動観察を通して明らかにした

実証から分かったこと：取組のポイント

1. 既存業務に適切に位置づけ、組織として取り組む

- 校内で、取組担当教員※や学年主任、学校管理職も健康観察結果を確認し、担任だけでなく**複数の目で健康観察の結果を見取る活用フロー**が確立されている



※取組担当教員とは、健康観察を行うアプリを担当する教員のことを指す。取組担当教員は担任を持たず、全校を見渡せる人を任命するよう教育委員会から依頼している。また取組担当教員の任命結果・各校で定める全校の健康観察の入力状況の見届け方法は、教育委員会への提出が必要である

- 「聞いてほしい（教職員に相談したいことがある児童生徒が押す）」には**その日中に対応する**という方針が共有されていることで、健康観察結果を閲覧する必然性が生じている

2. 児童生徒にとっても意味のある活動にする

- 一部学校では、**児童生徒自身が振り返る場を設定したり、児童生徒の班活動に位置づけ、ここタンの意義を考え発信**したりしている



- これらの活動が、健康観察の結果の入力の定着や入力の形骸化の防止や、児童生徒自身によるデータ利活用につながっていると考えられる

実証から分かったこと：取組の効果※1

教職員が感じている効果

- 教職員の**85%**が「**児童生徒の心の変化**に、今までよりも早く正確に気づけるようになった」と答えた
- 教職員の**87%**が「今までよりも**迅速かつ正確に情報共有**ができ、さらにはその対応の見届けまで丁寧にできるようになった」と答えた
- 学校管理職・取組担当教員の**93%**が「**担任への働きかけ**をする際に、より適切な支援方法の検討につながられるようになった」と答えた



ヒアリングで聞かれた声

“ これまでと違って、気になる児童生徒への対応を一人で抱え込まなくてよくなった ”

“ 忙しい時期は生徒との会話も減りがちだが、（この取組により）声かけが業務に組み込まれ、生徒と向き合う時間が増えた ”

児童生徒が感じている効果

- 児童生徒※2**84%**が「自分の体や心の記録を振り返ることは、**体や心が元気でいられるように工夫する**のに役立っている」と答えた
- 児童生徒※3の**82%**が「健康観察の取組は、**安心して学校生活を過ごす**ために役に立っている」と答えた

※1 2026年1月実施アンケートからの結果（回答数：教職員1,104名 / 児童生徒23,195名）

※2 小4～中3、自分の体や心の健康状態の変化を示すグラフを閲覧した層を対象に集計 / ※3 小1～中3

岐阜県岐阜市では、日々の「からだ」と「こころ」の状態を入力するシステム「ここたん」を活用し、朝・夕の健康観察による子どもが安心できる教育相談体制づくりに取り組んでいます

実証概要：岐阜県岐阜市

概要

岐阜市は、子どもが安心できる教育相談体制づくりを目的に、全小中学校で児童生徒の「からだ」と「こころ」の健康データを活用している。
1日に2回（朝・夕）行う健康観察の結果を基に、気になる変化が確認できた児童生徒への迅速な声かけにつなげている。

具体的な活用方法

健康観察(朝/夕)

- データ項目
- からだやこころの状態
 - 聞いてほしいことがあるか

児童生徒



集計・可視化



図1：クラス全体の様子を確認するページ

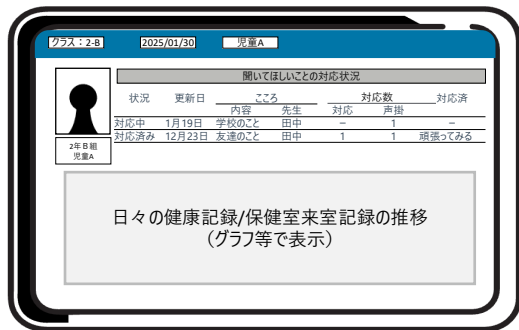


図2：個人の健康ダッシュボード

活用システム/ツール

- ここたん：「からだ」と「こころ」の様子を入力することで子どもの日々の変化に気づき、早期対応につなげるシステム。

教員

支援対象可視化



管理職/養護教諭/ここたん担当

学校全体の様子確認

担任へ様子を聞き取り



スコアが低下している児童がいるが、気になる様子はないか？

教員

児童生徒へ声かけ

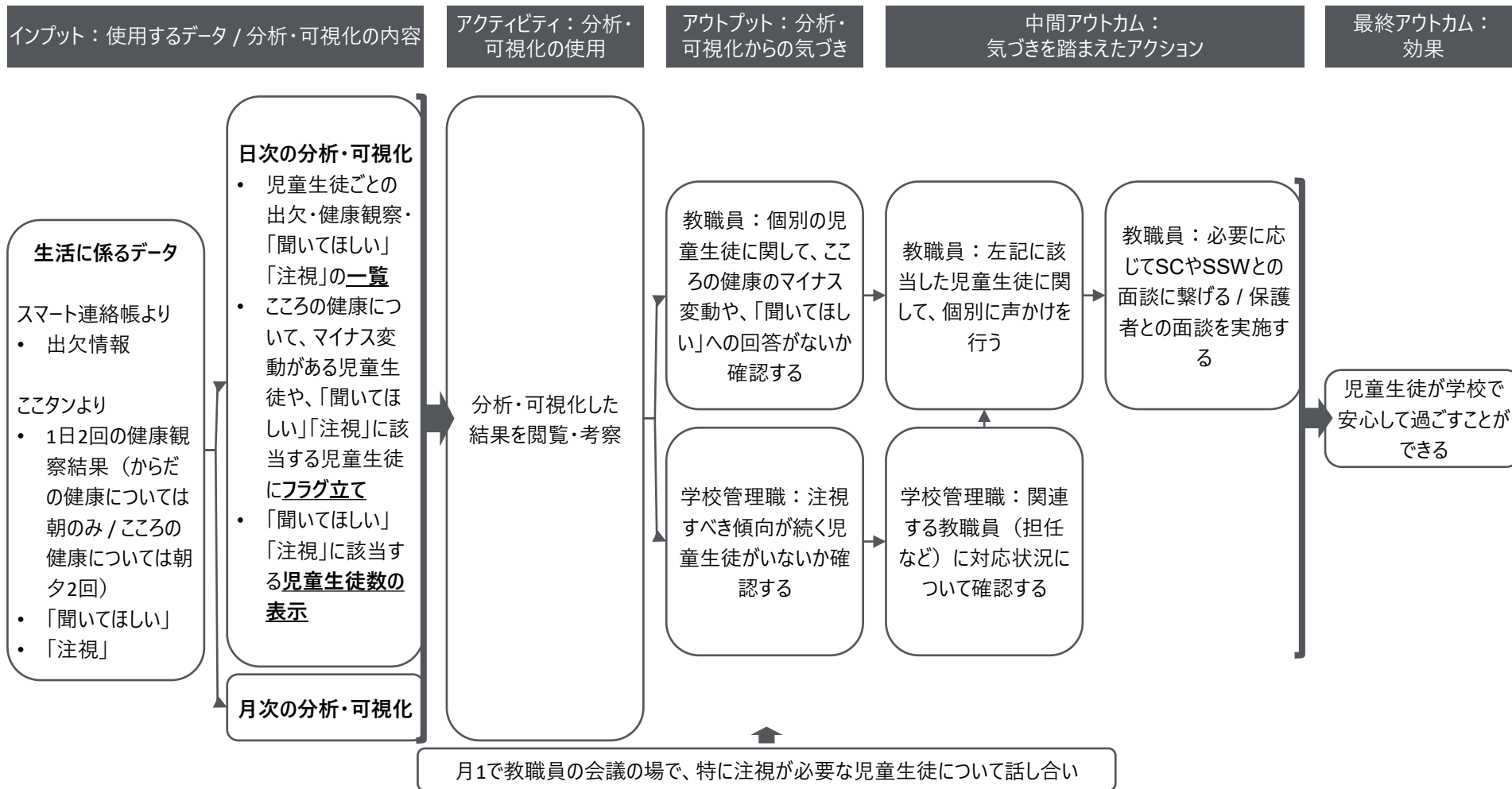


児童生徒の変化を把握し、声かけ・支援等による早期対応に繋がる

管理職も含め、学校横断で児童生徒への支援ができる

岐阜市の取組における要素を、以下の通りロジックモデルに整理しました

ロジックモデル：岐阜県岐阜市



調査概要

▼アンケートに関して

	児童生徒向けアンケート	教職員向けアンケート
実施期間	1/19 – 1/23（一部前倒し実施）	1/19 – 1/30
回答数	小学校1-3年生：7,380名 小学校4-6年生：8,264名 中学生：7,551名	小学校：783名 中学校：309名 義務教育学校：12名 ※以降、小中間で回答に大きな違いは見られなかったため、全体をまとめて集計した結果を示す

▼ヒアリングに関して

	陽南中学校	加納西小学校
実施日	2/12	2/13
ヒアリング対象	FG1：中3担任・生徒指導担当 FG2：中2学年主任・中2担任・中3学年主任・教頭 FG3：中1学年主任・中1担任・教育相談担当	インタビュー1：いじめ対策監 インタビュー2：養護教諭 FG：小3学年主任・小3担任

活用フローの確立等によって、児童生徒を全教職員で見守るツールとして効果を発揮していること、また、児童生徒自身の振り返りツールとしての今後の可能性が示唆されました

調査結果・示唆サマリ

1. 教職員間での活用フローの確立 + ここタンを閲覧する必然性による活用の定着

- 教職員において、大半が意図を持って、日々閲覧していることがアンケートより分かった
- ヒアリングでも、校内で誰がいつ見て、教職員同士でどう連携するかについて、共通認識を持っている
- これらが実際の活用効果（児童生徒の心の変化への気づき、迅速・正確な情報共有、担任への働きかけ）につながっているのではないかと
- また、「聞いてほしい」を見落とさず、その日のうちに対処する必要性によって、必然的に学校内でここタンの閲覧が定着しているのではないかと

2. 教職員全体で児童生徒を見守るためのツールであるという共通理解の重要性

- ここタンによる業務変化として、特にアンケートで示されたのが教職員間での迅速・正確な情報共有や、学校管理職等から担任への働きかけであった
- ヒアリングでも、教職員全体で見守ることができることは効果として挙げられ、そのためのツールであるという理解の下、上記のような活用フローが確立されている

3. 児童生徒にとっても意味のある活動にすることの重要性

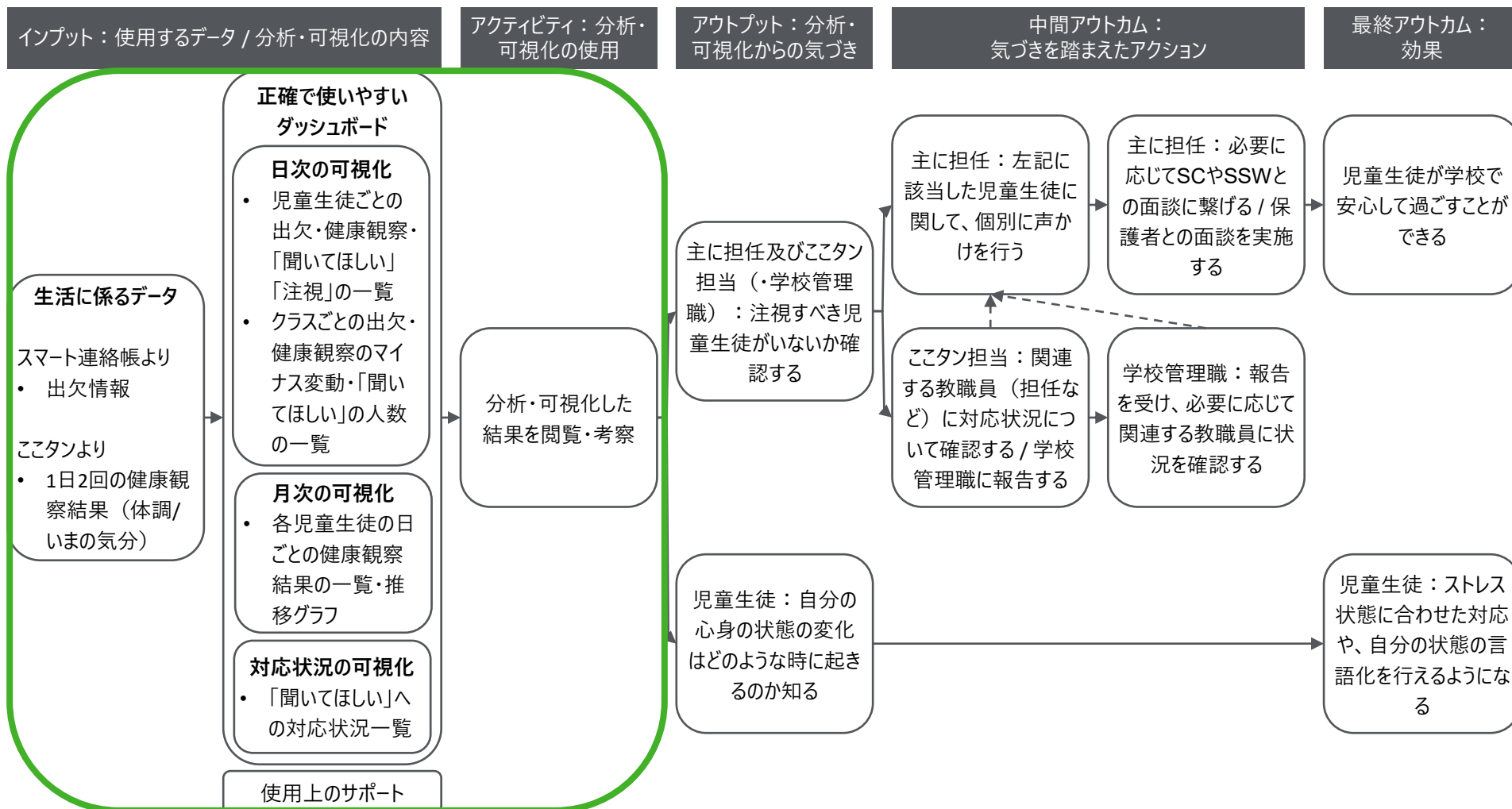
- ヒアリング対象校では、児童生徒自身が振り返る場を設定したり、児童生徒の班活動に位置づけ、ここタンの意義を考え発信したりしていた
- これらの活動が、入力の定着や入力の形骸化を防ぐことにつながっているのではないかと
※一方、ヒアリングでは一部、入力の負担や入力自体の目的化についても指摘された

4. 児童生徒自身が自分の変化を振り返ることによる効果の可能性

- ここタンで体や心の記録を振り返ることで、自分の変化に気づきやすくなったか / それらの記録は、自分が元気でいられるように工夫するのに役立っているかという質問に対して、同意する児童生徒は限定的であった
- 一方、ここタン上のグラフ閲覧層では、ややその割合が向上することから、これらの効果は、そもそもグラフを閲覧し、振り返る場を設けることで実感する層も増えていくのではないかと

以降の結果について、ロジックモデル上では以下が該当します

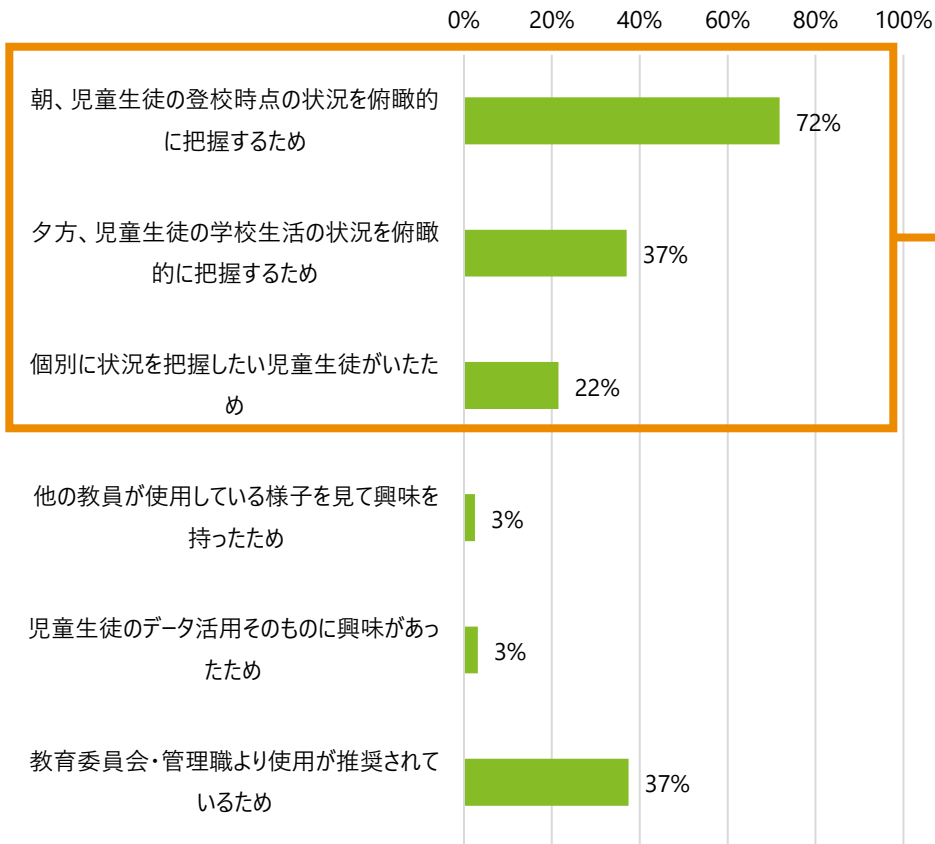
ロジックモデル



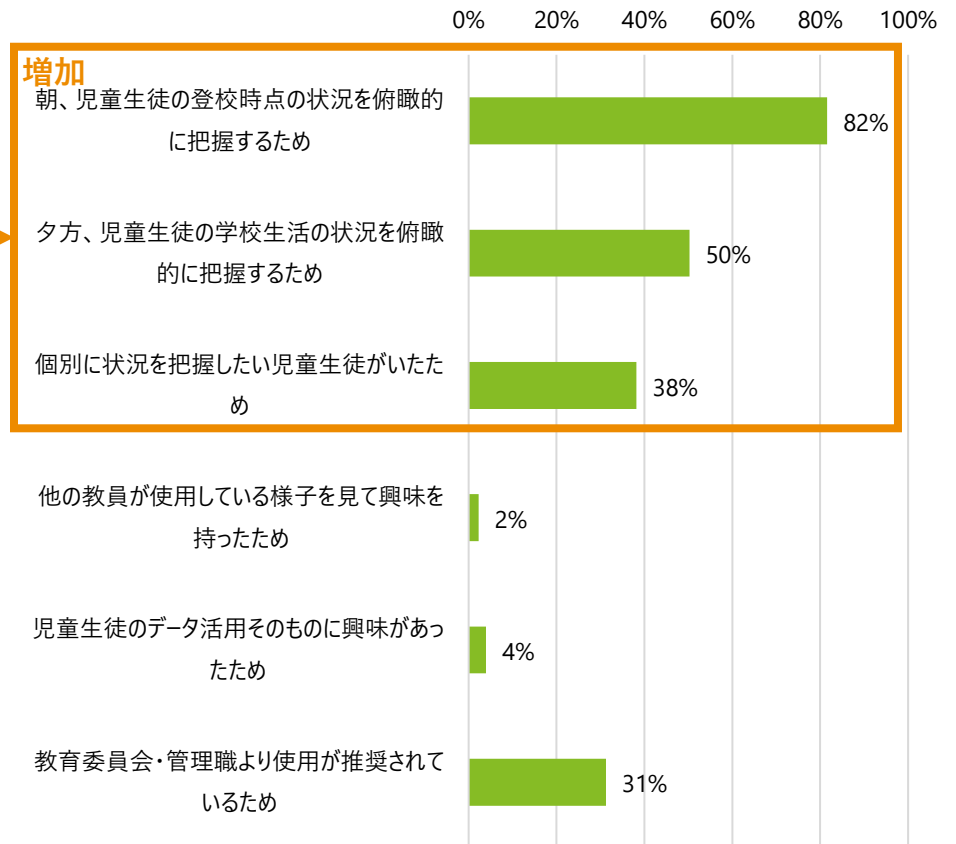
導入当初に比べ、現在はより想定される活用シーンごとに意図を持って、ここタンを閲覧しているようです

閲覧きっかけ（教職員）

ここタンが始まった頃（導入後～3か月後頃）は、
どのようなきっかけでここタン結果を見ましたか



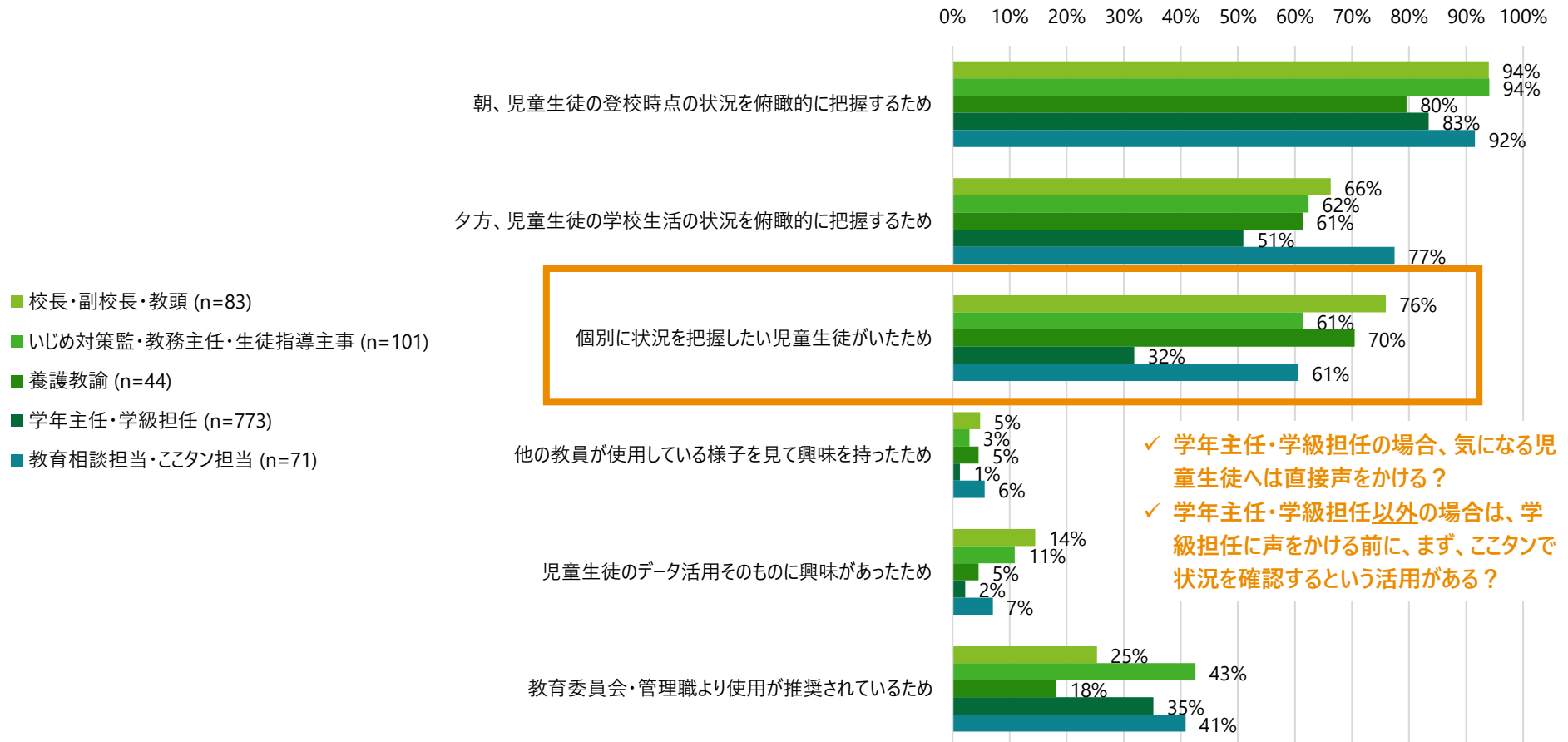
現在は、どのようなきっかけでここタン結果を見ていますか



職種別では、学年主任・学級担任以外が個々の児童生徒の状況把握に活用する一方、学年主任・学級担任ではその使われ方は限定的等、職種別に活用シーンが異なります

閲覧きっかけ（教職員）

現在は、どのようなきっかけでここタン結果を見ていますか

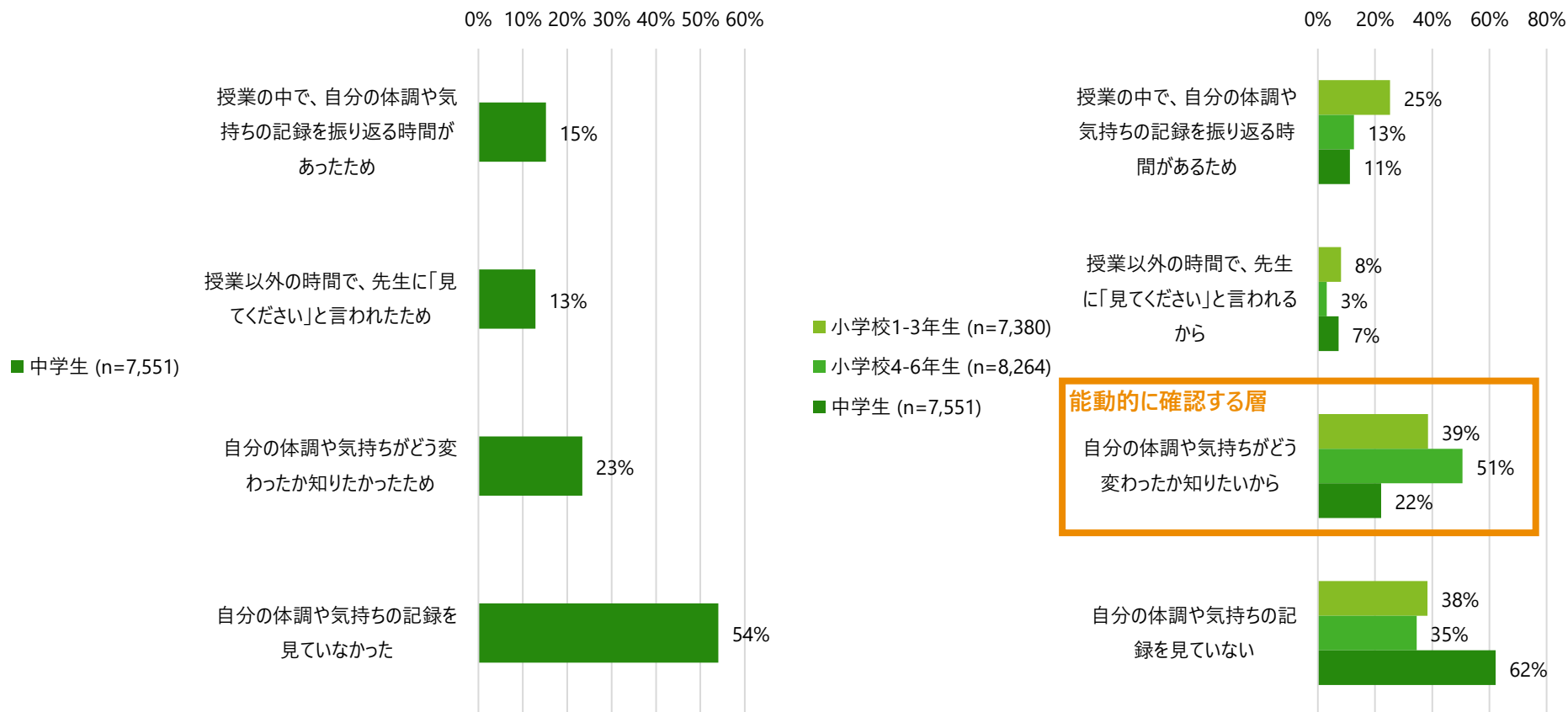


中学生に関して、導入時・現在で閲覧きっかけに違いはないようです。小学生には現在についてのみ尋ねましたが、一定割合が能動的に自分の変化を確認するために閲覧しています

閲覧きっかけ（児童生徒）

ここタンがはじまったとき、どんな理由で、自分の体や気持ちの様子を記録した表やグラフを見ましたか

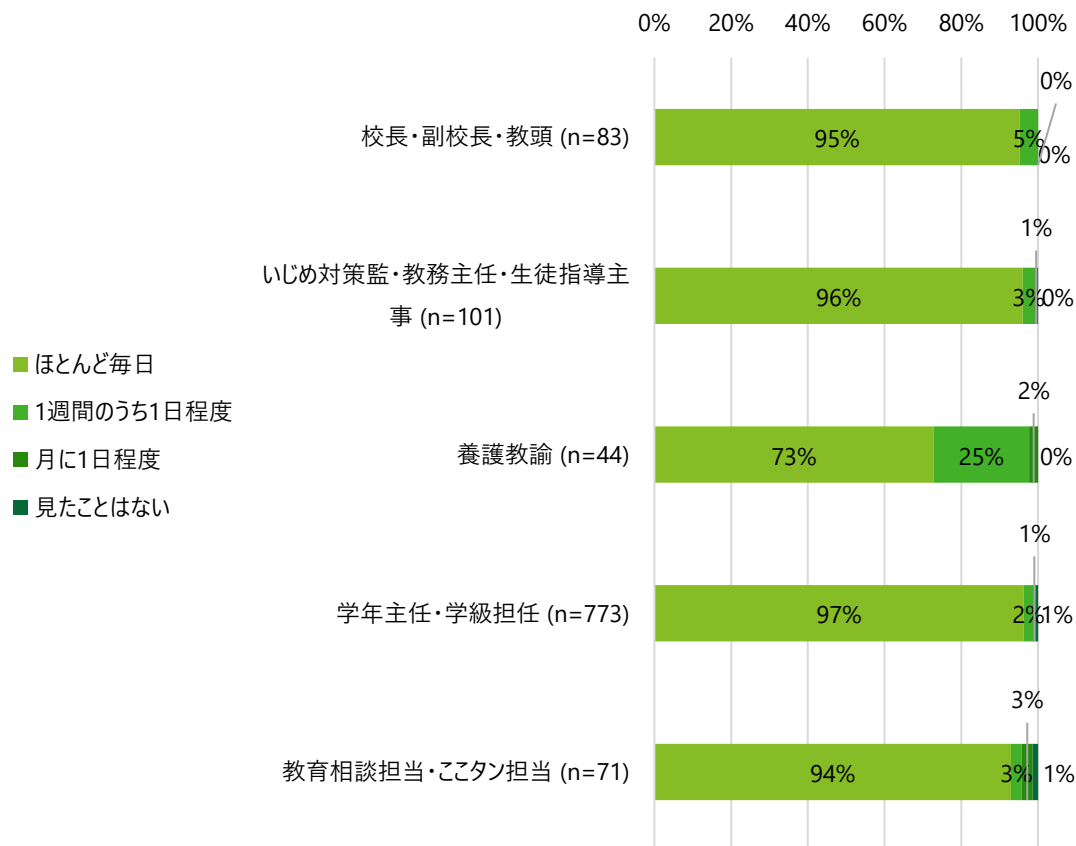
(今は、) どんな理由で、自分の体や気持ちの様子を記録した表やグラフを見ますか



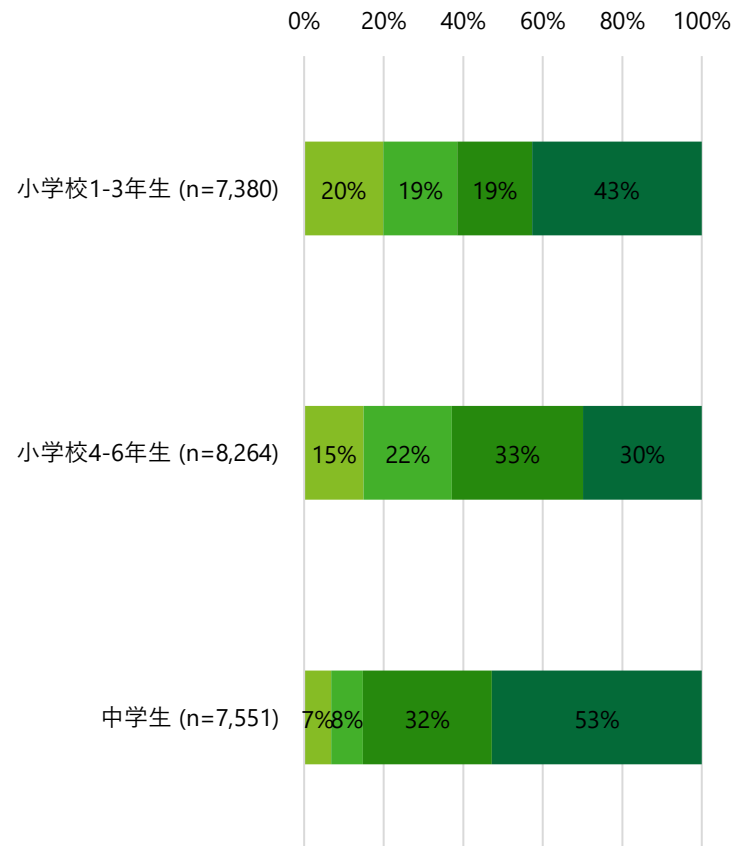
大半の教職員が毎日閲覧しています。児童生徒に関しては、小学校4-6年生における閲覧割合がやや高いです

閲覧頻度（教職員・児童生徒）

最近、どれくらいの頻度で、ここタン結果を見ていますか

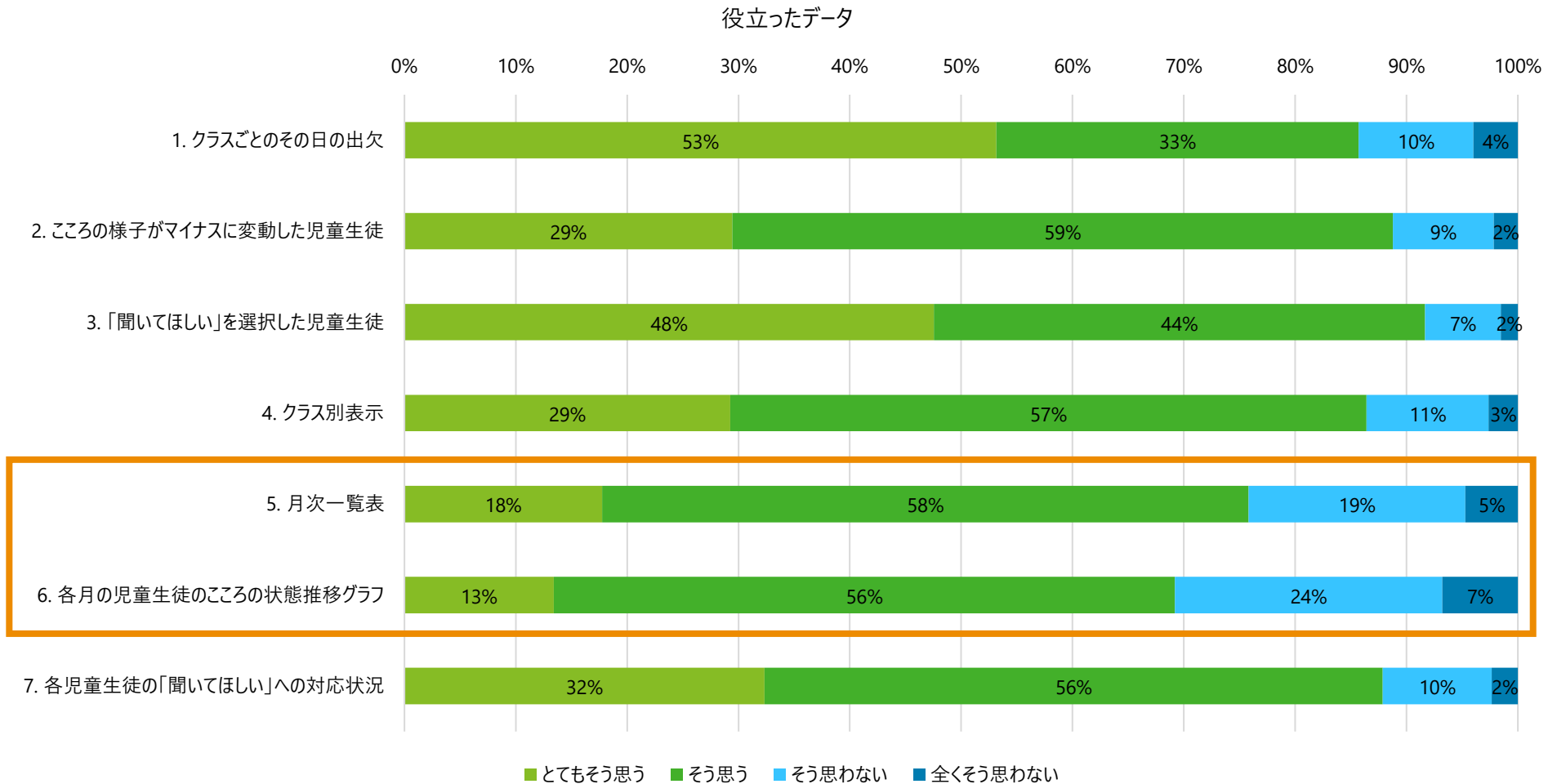


最近、自分の体や気持ちの様子を記録した表やグラフを見る回数として、どれが当てはまりますか



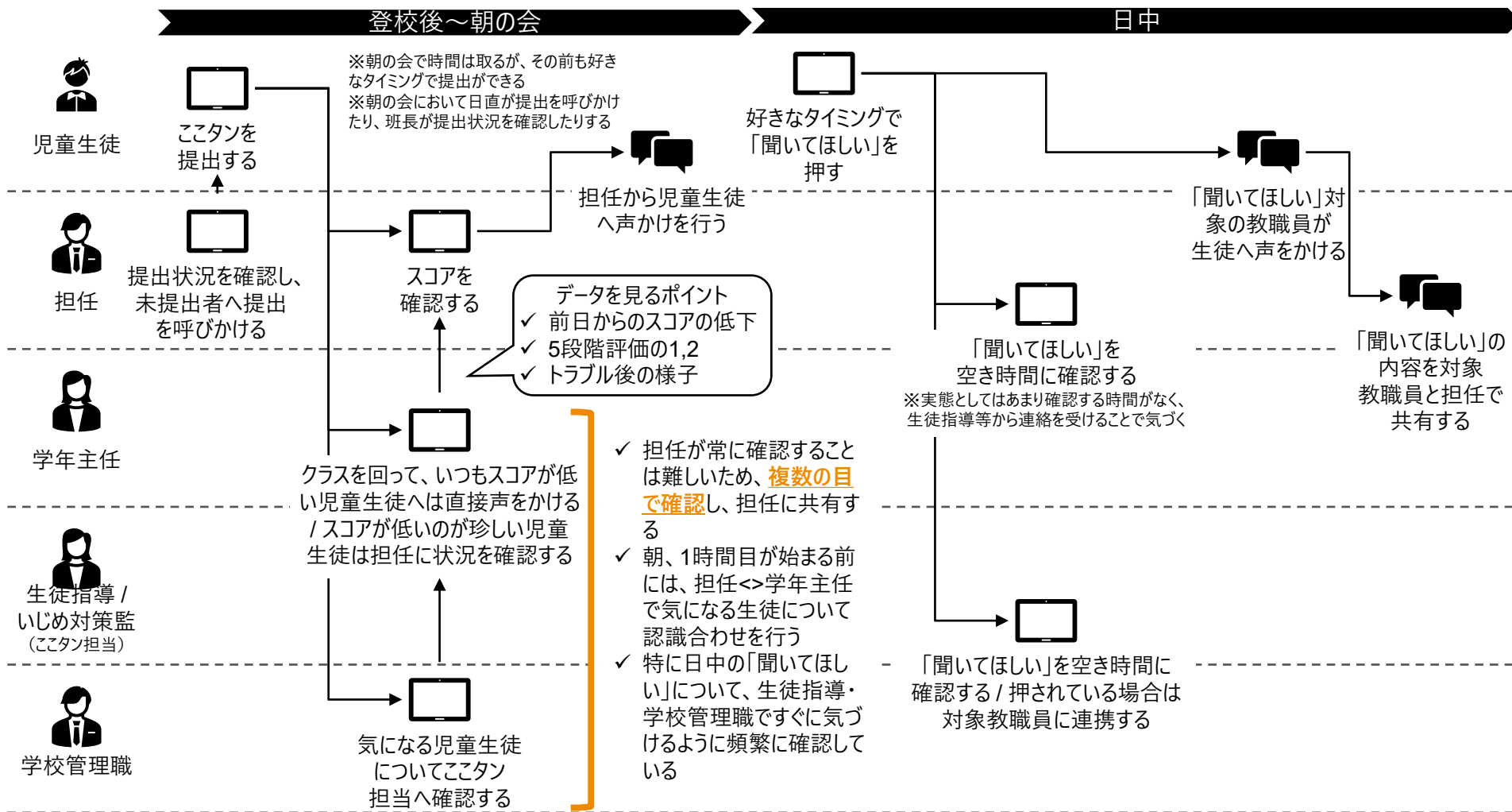
教職員にとって、出欠・「聞いてほしい」が役立つデータである一方、月次データはそれらに比べると有用性が低い結果となりました

役立ったデータ（教職員）



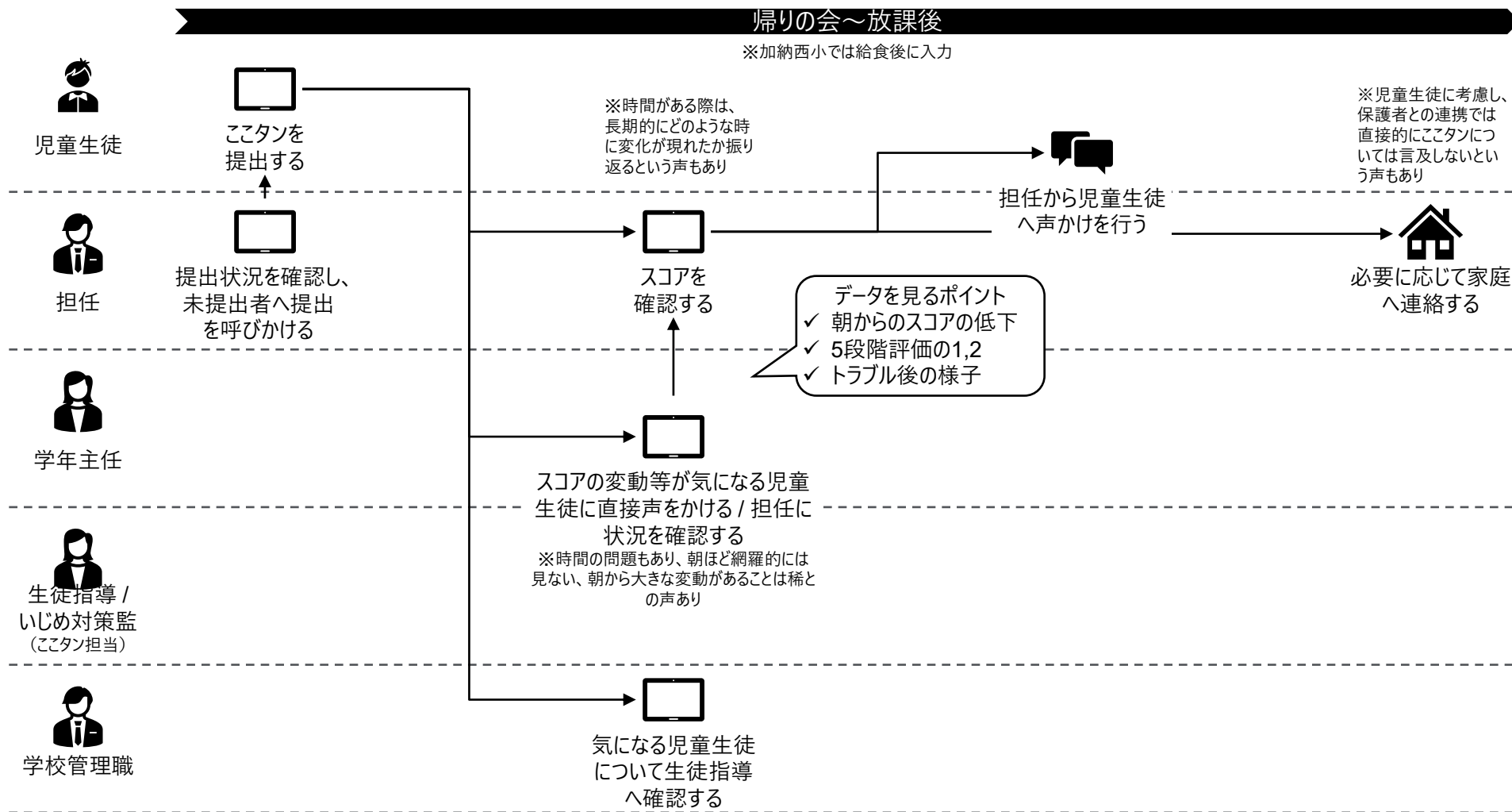
1日を通して、ここタン担当が中心となって、低スコアやスコアの低下、「聞いてほしい」について、見落としがないように体制・フローを確立されていることが分かりました

ここタン活用の流れ（ヒアリングより）



(前頁続き)

ここタン活用の流れ (ヒアリングより)



ここタン活用を意味のあるものにするために、教職員・児童生徒へのメッセージングや児童生徒自身が活用する場の設定、対応における丁寧な配慮等をされています

運用上の工夫（実施していること・したいこと）（陽南中学校 / 加納西小学校ヒアリングより）

サマリ	ヒアリング
入力が目的化しないよう、教員へのメッセージングが重要である	<ul style="list-style-type: none">絶対にここタンを入力させなければいけない意識で教員がいると、目的が変わってきてしまう（加納西小・担任）教員が義務感で取り組んでいると活用が進んでいけないため、学校として教員への研修等を通じて活用の意義に関する話をする必要があると考える（陽南中・いじめ対策監） ※やりたくない/知られたくない子どもに対してどこまで入力を強制するのは考える必要がある
子どもにとっても意味のある活動にする	<p>※前提として、心の健康のスコアに変動はあまりない <u>意図的な取組を実施</u></p> <ul style="list-style-type: none">保健部内でここタンの必要性について考え、全校生徒にもここタンに取り組む意義を伝えていく動きが始まっている（陽南中・担任）自分の気持ちの浮き沈みを見て、振り返ってみようという声かけを全校放送で実施。自分をより知れるように、いつも3だったけど、ちょっとした変化でも2,4にしてみようかなという声（陽南中・生徒指導） ※一方で、加納西小からは、グラフなどを振り返る機会は設けていない。小3では1ヶ月単位で振り返るとなると難しい、1週間単位であればできるのではないかと思う（加納西小・担任）という声あり
sosを出したことを後悔させない配慮をする	<p>今後、保健体育の授業での活用もできるかもしれない（加納西小・担任）</p> <p><u>教職員からの伝え方の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none">「毎日自分の心や体を振り返ることが落ち着いた生活につながっていく」ことを伝えている。定期的に振り返ることでカッとなることを防いだり、自分の行動の改善点に気付いたりすることを生徒に伝わる言葉で伝えている。（陽南中・教育相談）入力していない（できていない）ことにも理由があるかもしれない、それを踏まえた声掛けが必要であり、それによって形骸化も防げると思う（陽南中・生徒指導）
絶対的なスコアではなく児童生徒ごとの変化に着目する	<ul style="list-style-type: none">スコアが下がった生徒全員に声をかけるわけではなく、その他の様子も総合的に評価して声かけをするか・どのような声かけをするか決める（陽南中・担任）ここタンのことを直接話題にはせず、表情を汲み取って声をかけている。他の生徒の前で呼び出さない（陽南中・担任）「聞いてほしい」は特別なことだと思ってすぐに対応するようにしている。（加納西小・担任）
	<ul style="list-style-type: none">数字の価値観・「聞いてほしい」ボタンの感覚は子どもによって異なる。普段の児童の様子と比較して、その日の数値がどうかを確認している。（加納西小・担任）

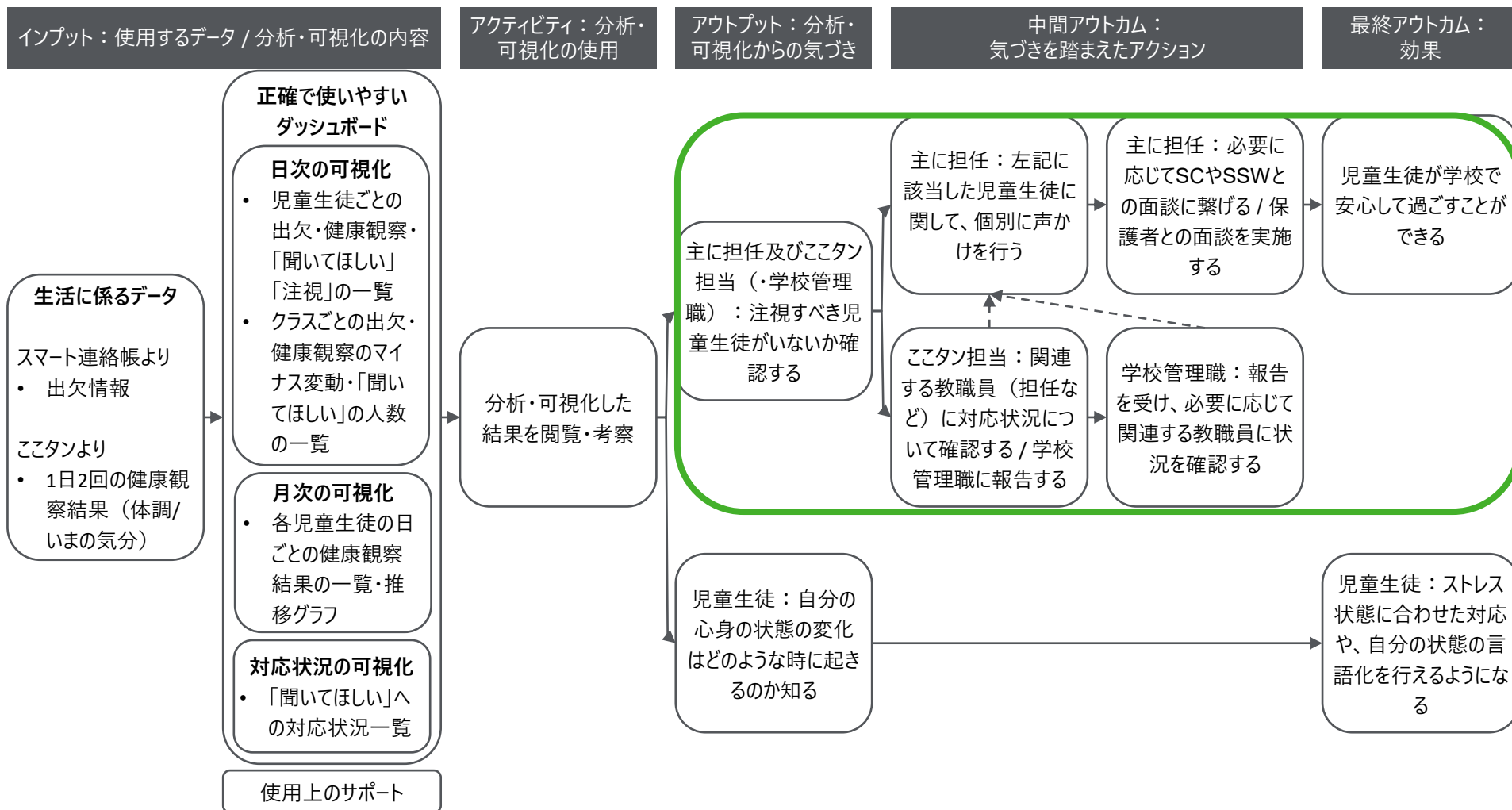
加えて、業務の中で無理なく、習慣化していくことの重要性が再確認されました

運用上の工夫（実施していること・したいこと）（陽南中学校 / 加納西小学校ヒアリングより）

サマリ	ヒアリング
業務の中に組み込む	<ul style="list-style-type: none">朝の会・帰りの会で様々な対応事項がある中、組み込んで習慣化する必要がある（加納西小・担任） ※前提として、慣れまで少しは時間が必要
複数の目で見る	<ul style="list-style-type: none">30人を一人では見切れないため、学年主任や管理職が確認できる体制は助かっている（陽南中・担任）
働き方改革とセットとする	<ul style="list-style-type: none">教員も子どもも、時間の余裕がないタイミングで強制すると、惰性で入力するなどの使い方になってしまう（加納西小・養護教諭）不登校傾向がある児童に関して、何ができるのかを話し合うようにしており、その中でもここタンを使っていきたい。来年度は学年部と管理職で不登校対策会議を月次で実施し、不登校傾向のある子どもに対して、学校全体で誰が何をするのかをはっきり決める。不登校対策会議を実施する代わりに、職員会議を4月と3月以外は実施しない方針で考えている。また、毎週実施している打ち合わせを隔週に変更する。Teamsとロイロノート等を活用して、情報共有を行う（加納西小・校長）

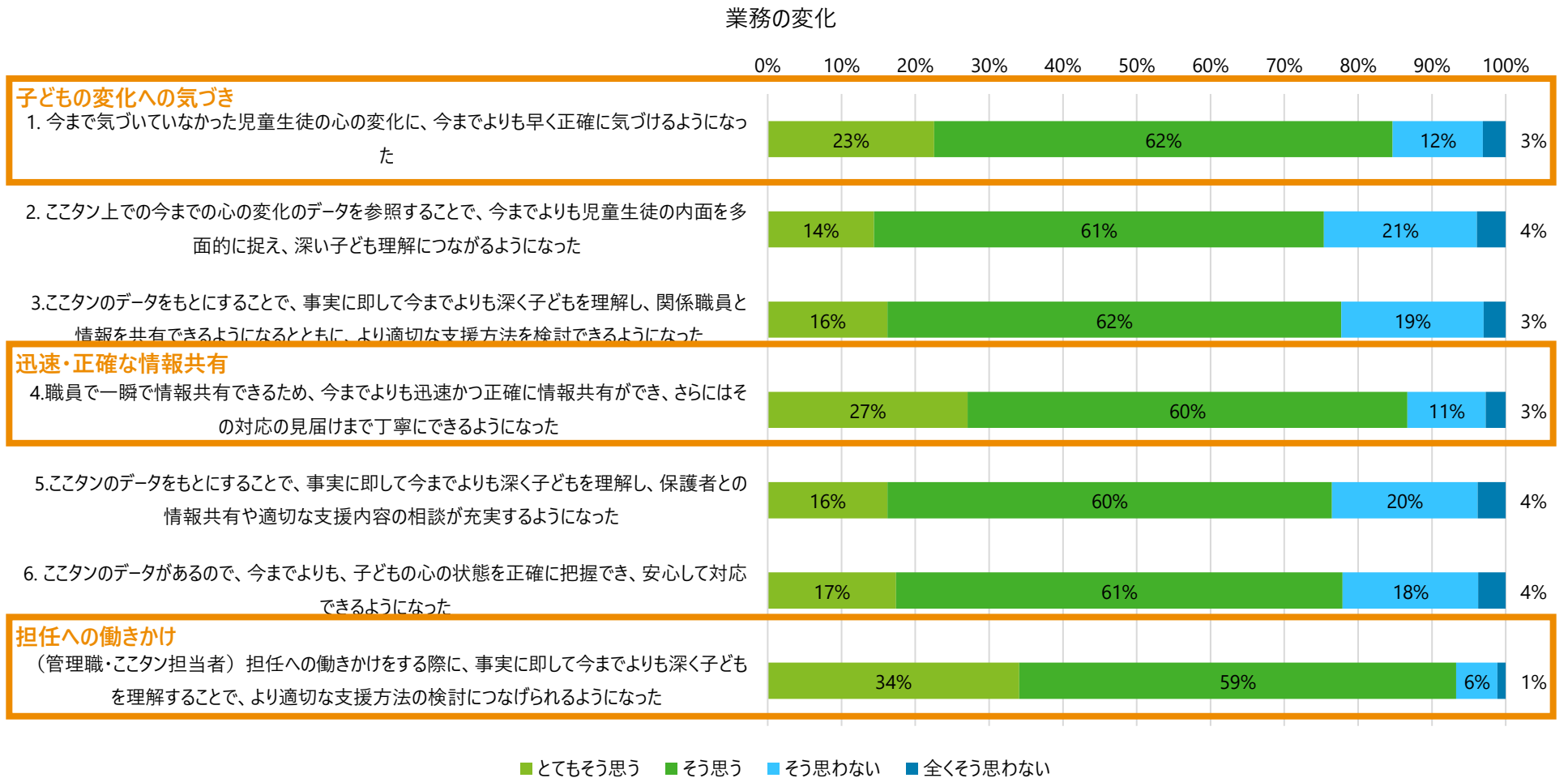
以降の結果について、ロジックモデル上では以下が該当します

ロジックモデル



ここタンの活用は、児童生徒の変化への気づき・実際の支援までつながっているようです。特に、教職員間の情報共有・管理職等から担任への働きかけに有効な様子が見られます

業務の変化（教職員）

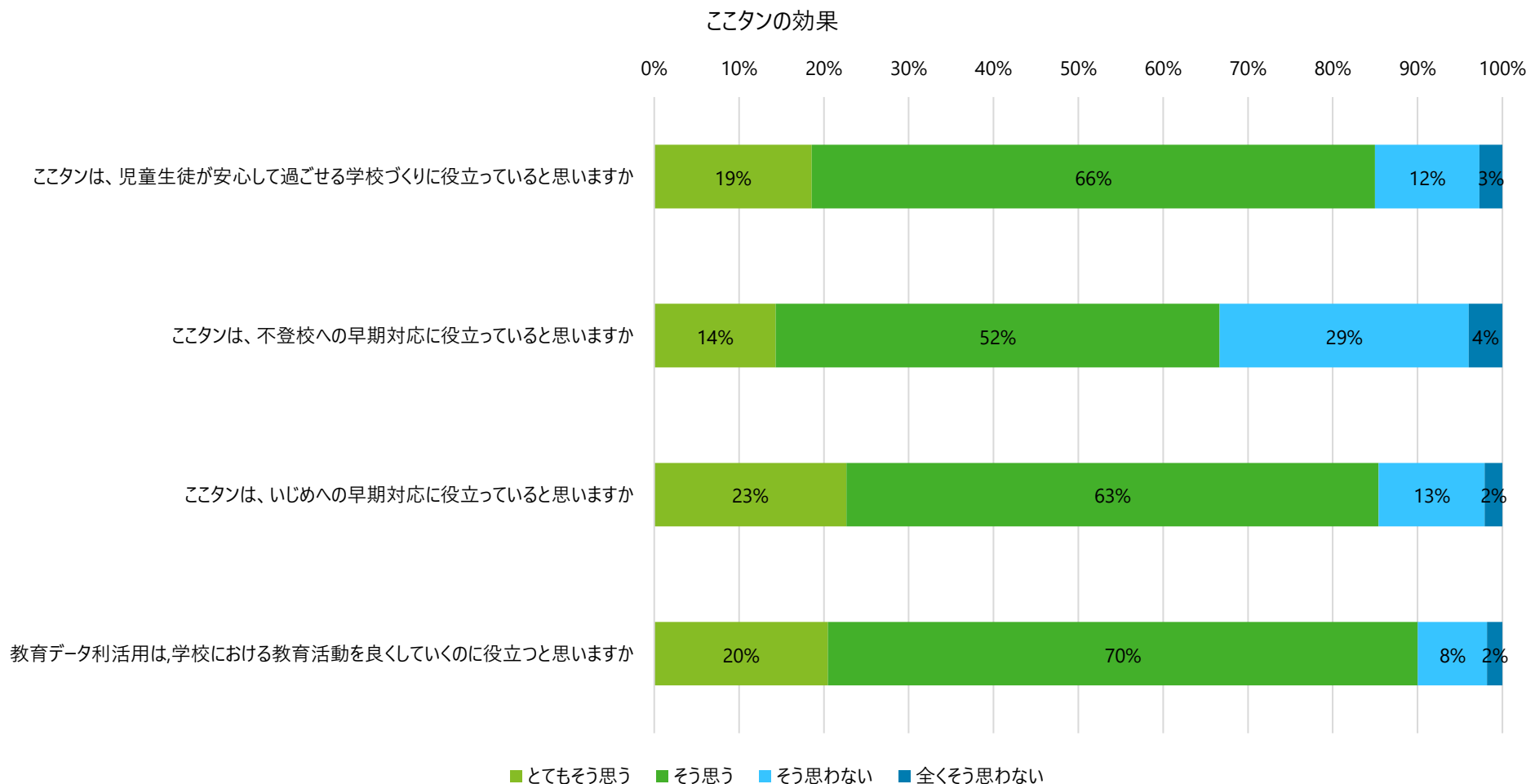


効果（陽南中学校 / 加納西小学校ヒアリングより）

サマリ	ヒアリング
※前提として、ここタンは児童生徒のツールを見取る一つの材料に過ぎず、目の前の子どもの様子を教職員が直接見取ることの重要性は変わらない	
子どもの変化により敏感に気づくことができる	<ul style="list-style-type: none">• データを基に声をかけやすい。忙しい時期は生徒との会話も減っていくが、ここタンがあることで、声かけが業務の一部に組み込まれ、会話量が増えた。生徒と向き合う時間が増えたと感じている（陽南中・担任）• 表情に出さない児童生徒について分かるようになったことが多い、大事になる前に聞けて良かったということがある（陽南中・生徒指導）• ここタンがなかったときは、「大丈夫かな？何かあったかな？」という目で、児童を見ることしかできなかったが、ここタンは児童の隠れている部分も把握できる点が良い。（加納西小・いじめ対策監）
sosを出しやすい	<ul style="list-style-type: none">• 担任以外の先生を指定している子どももあり、今までと比較して悩んでいることを表明しやすくなっているのではないかと感じている（陽南中・学年主任）「気持ちを出していい」という意識が、生徒に醸成されたのではないかと感じている。1年生の時は、明らかに落ち込んだ様子な生徒も「大丈夫」と回答していた。ここタンだけでなく、毎月の健康調査でも不安な状況や相談する人がいるかどうかを正直に回答してくれるようになった。（陽南中・担任）• 生徒によって、女性の先生/男性の先生の方が話しやすい場合がある。また、4月等、担任が変わったタイミングだと、担任よりも話を聞きやすい先生がいる場合もある。（陽南中・担任 / 加納西小・担任）• 気軽に相談できることが子どもに浸透したことが良い変化だと思う（加納西小・養護教諭） ※一方で、ここタンがないとsosを出せなくなるとか、卒業後大丈夫か（陽南中・担任）という懸念も挙げられた
担任以外も含めて、教職員全体で児童生徒を見守ることができる	<ul style="list-style-type: none">• 他の学年の様子も見て動ける（陽南中・学年主任）• （担任以外の教職員が）全生徒を直接、毎日見ることが難しくても、ある程度状態を確認できる（陽南中・教育相談）• 業務が忙しい時に見逃しがちだが、複数の目でみることで見落としを減らせている。また、業務共有が図れるようになっており、過去の「聞いてほしい」がどうなったかを確認する等、教員同士のコミュニケーションや連携機会が増えている。（陽南中・学年主任）
児童生徒の心の健康の重要性への意識が教職員間で高まった	<ul style="list-style-type: none">• 「教員が児童の心の健康を大切にしなければいけないという意識」が高まった。たくさんの業務があるなかで、ここタンに記載された内容をもとに、教員にも様子を見てほしい旨を伝えやすくなった（加納西小・養護教諭）

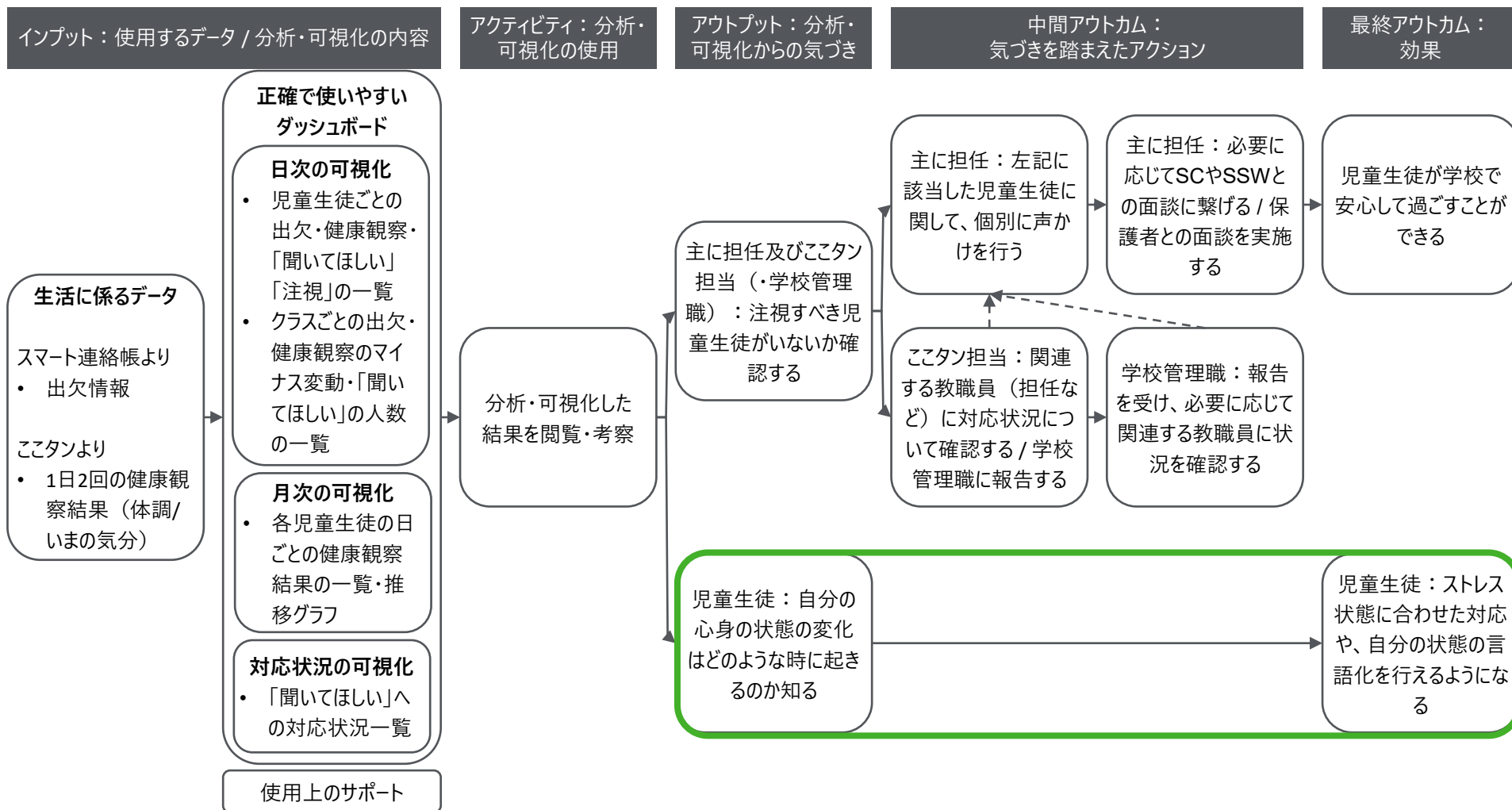
不登校への早期対応に関して、効果を感じる教職員はやや限定的でしたが、「安心して過ごせる学校づくり」「いじめへの早期対応」に関しては効果が感じられているようです

ここタン・教育データ利活用の効果（教職員）



以降の結果について、ロジックモデル上では以下が該当します

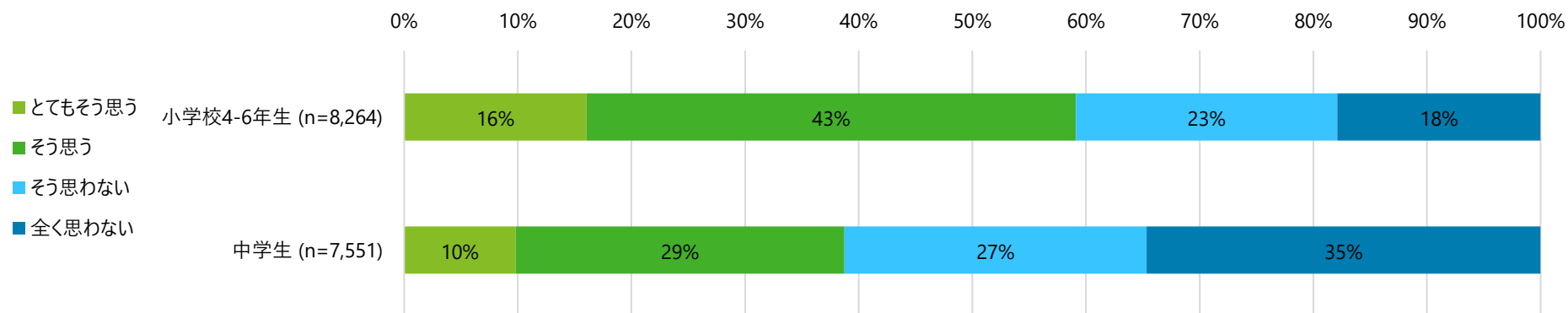
ロジックモデル



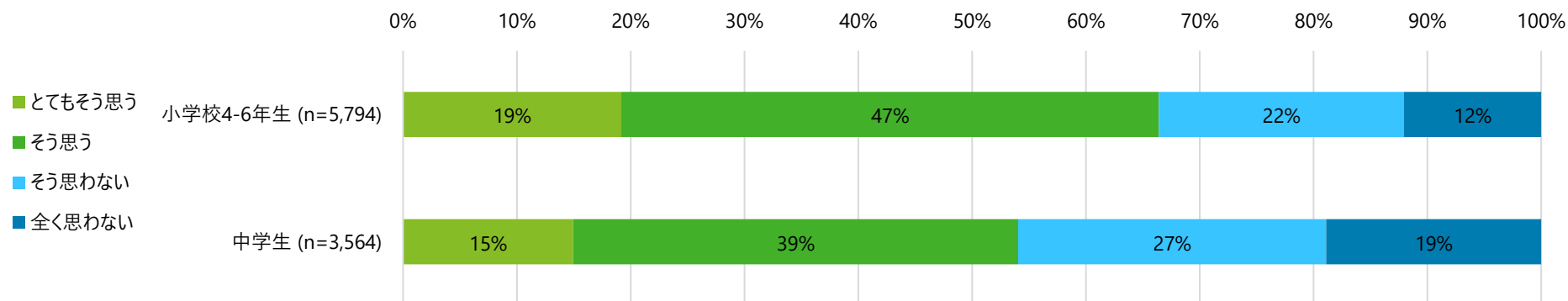
ここタンの使用によって、自身の体調や気持ちの変化に気づきやすくなった児童生徒の割合は、特に中学生で限定的ですが、ここタン上のグラフ閲覧層ではややその割合が向上します

ここタンの効果（児童生徒）

ここタンを使うようになってから、自分はどんな時に体調を崩したり、落ち込んだりしやすいか気づきやすくなりましたか



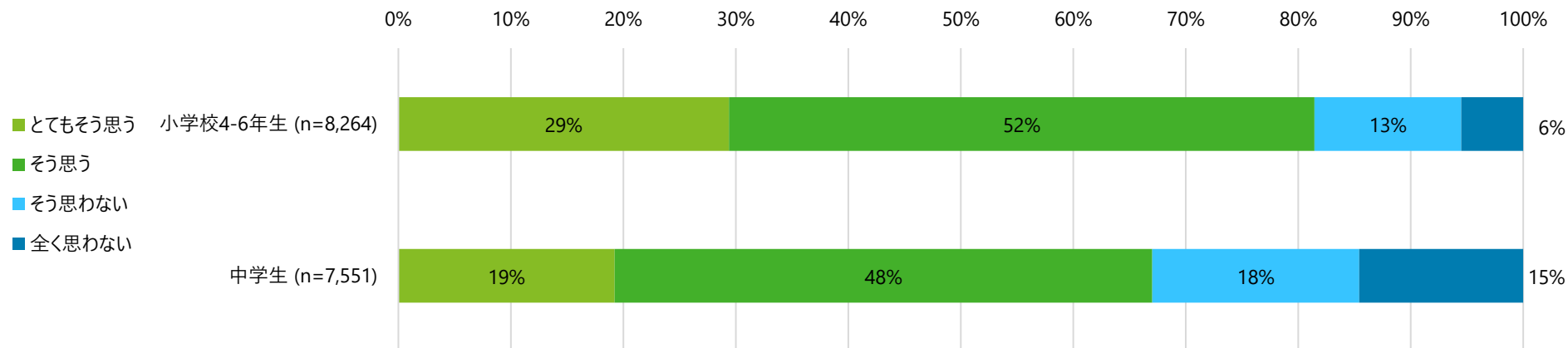
(上記質問 / ここタン上のグラフを閲覧している児童生徒のみ)



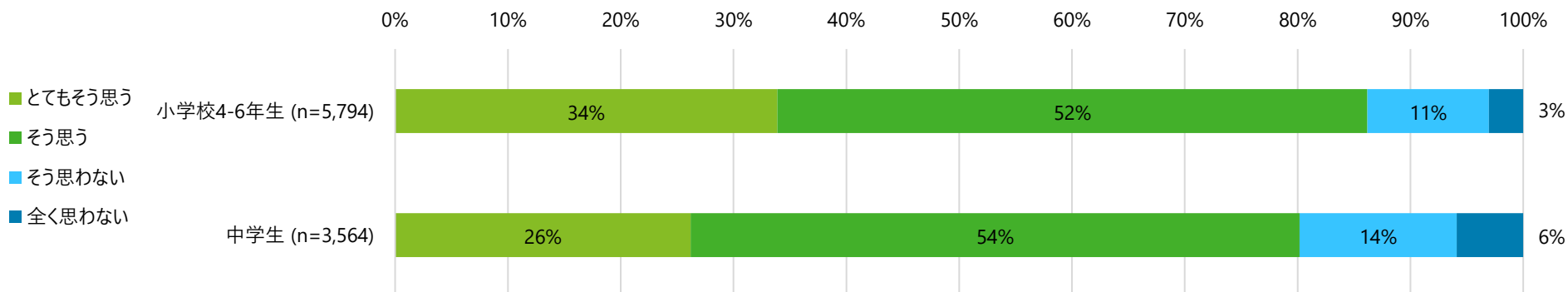
前頁のような「気づき」はなくとも、ここタンの使用は心身の健康のための工夫につながっているようです。前頁同様に、ここタン上のグラフ閲覧層ではその割合が高まります

ここタンの効果（児童生徒）

ここタンで、自分の体や心の記録を振り返ることは、身体や心が元気でいられるように工夫するのに役立っていると思いますか



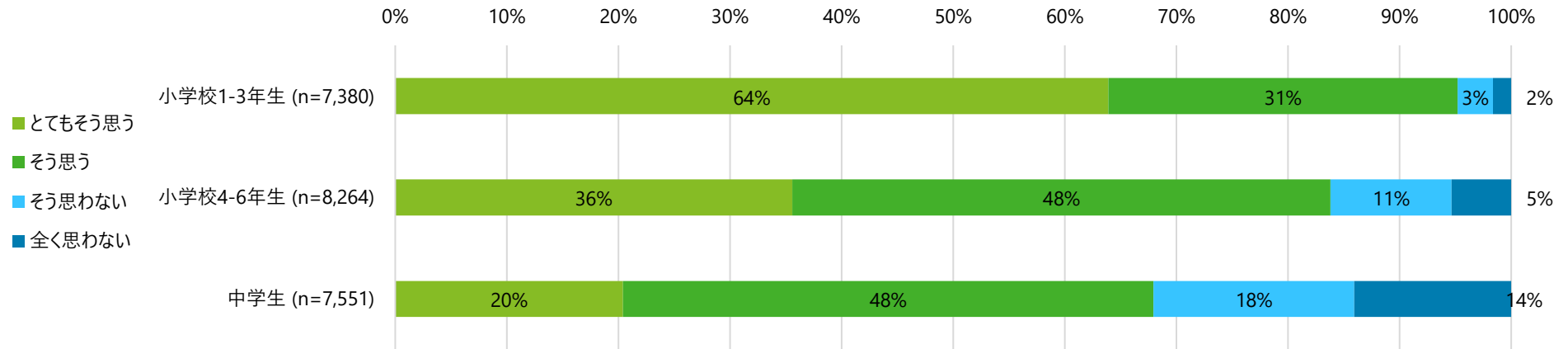
(上記質問 / ここタン上のグラフを閲覧している児童生徒のみ)



ここタンが安心した学校づくりにつながっている実感について、中学生では小学生に比べると低めですが、ここタン上のグラフを閲覧している層では、その割合が高くなります

ここタンの効果（児童生徒）

ここタンは、安心して学校生活を過ごすために役に立っていると思いますか



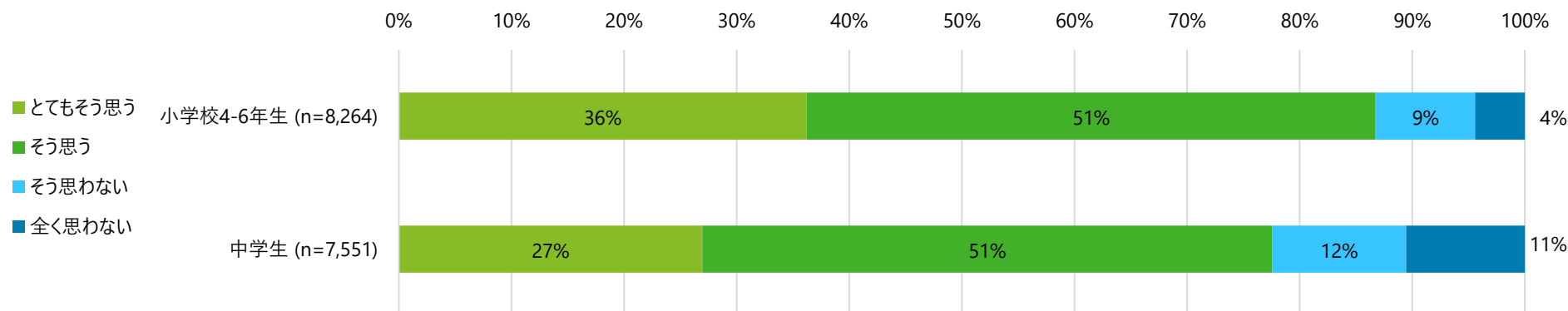
(上記質問 / ここタン上のグラフを閲覧している児童生徒のみ)



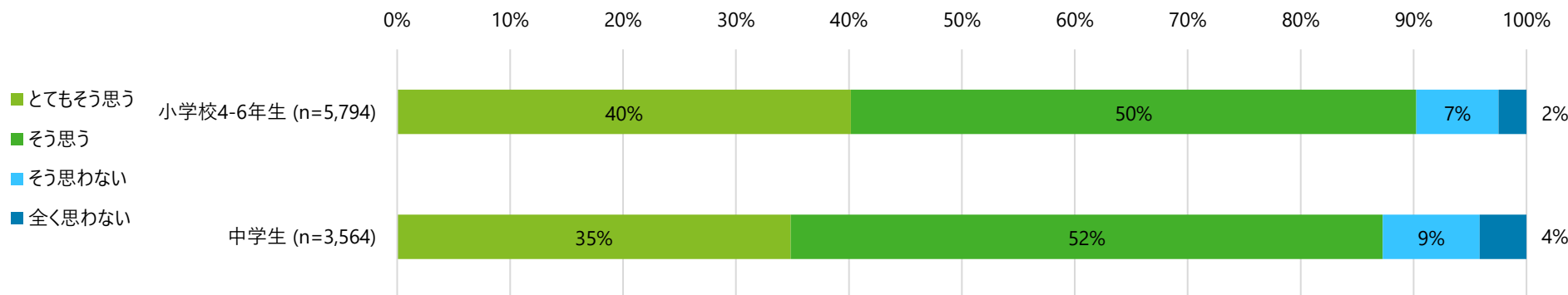
教育データ利活用の有用性を感じる層は80%程度で、ここタン上のグラフを閲覧している層では90%前後に向上します

教育データ利活用の効果（児童生徒）

ここタンのデータやそれ以外の様々なデータが分かると、自分のよさや課題などに気づき、
これからの生活や学習などを良くしていくのに役立つと思いますか



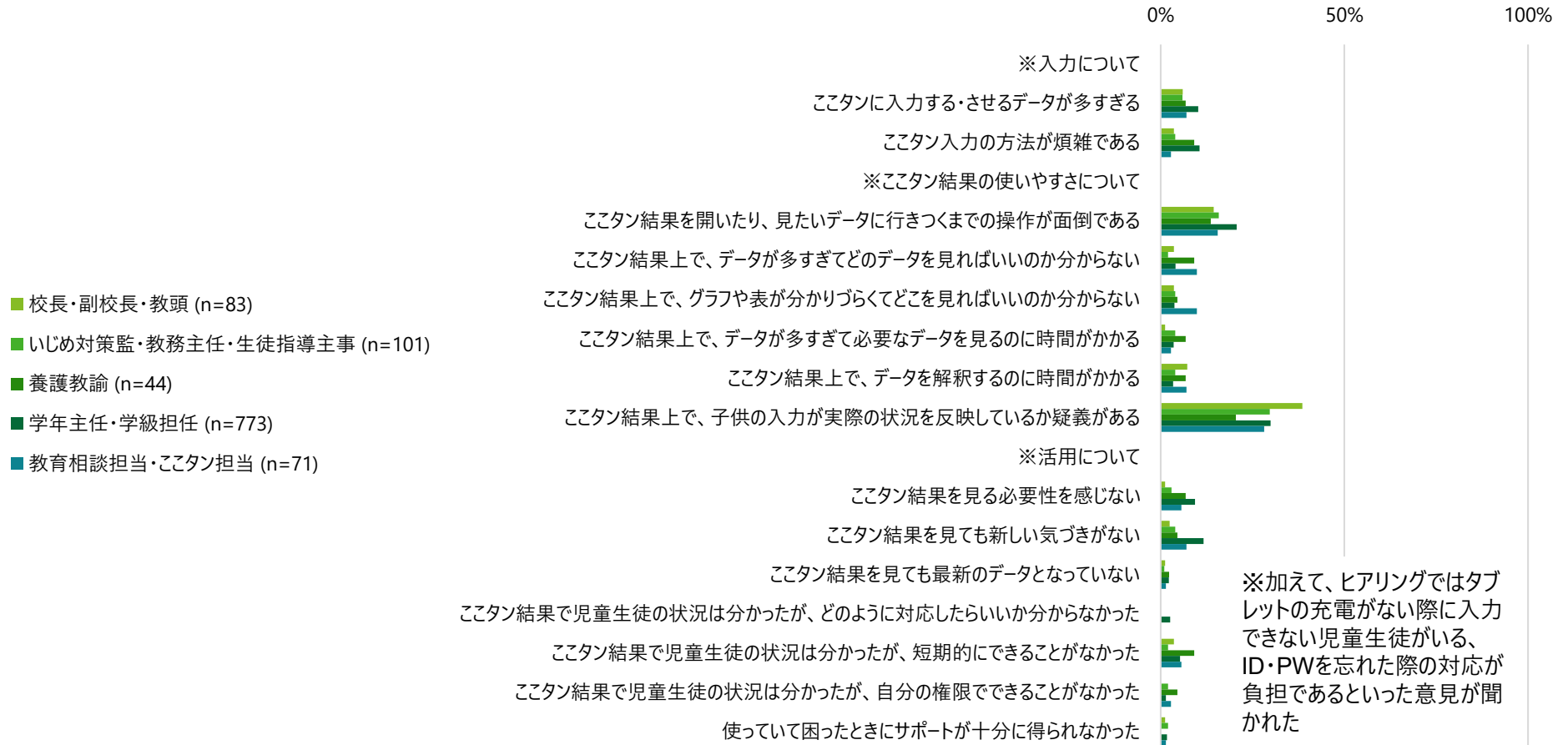
(上記質問 / ここタン上のグラフを閲覧している児童生徒のみ)



活用における大きな課題は見つかりませんでした、強いて取り上げるなら、子供の入力に対する疑義が挙げられます

活用における課題（教職員）

データ入力やここタン結果の閲覧・活用にあたって、課題や困ったことを全て選んでください



今後の発展として、通知・リマインド等、運用を楽にするための機能を追加してほしい、生活習慣・気持ちの変化の理由を知りたいといった要望が挙げられました

追加的に表示してほしいデータ・欲しい機能（自由記述・ヒアリング / 教職員）

サマリ	自由記述より、原文
「聞いてほしい」の通知	<ul style="list-style-type: none"> 「聞いてほしいボタン」を押したことがポップアップで出てくるなど、すぐ押したことがわかる工夫をしてほしい。（小学校）
リマインド	<ul style="list-style-type: none"> 入力していない生徒に通知する（中学校） 入れていない子にアラームが鳴る機能をつけてほしい（小学校）
生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 起床時間と就寝時間、朝食の有無（中学校） 眠れたか、朝食を食べたか、メディア利用状況（中学校） 朝食をとって来たか、よく眠れたか（小学校）
気持ちの変化の理由	<ul style="list-style-type: none"> 「聞いてほしい」で誰か教師を呼んで話を聞くまでのsos状態でなくとも、〇〇さんに嫌なことを言われ、または、喧嘩して気分が下がっているなど、心の状態の簡単な理由について、選べるボタンがあると担任としても、声かけなど対応に幅ができてありがたいと思います。（小学校） 下がった児童に、その理由を選択式にして表示する機能があっても良いか。例)①家のことで、②学校のことで、③その他、など（小学校） 気持ちで1を選んだ時に、その理由を選択したり入力したりして、把握できるようにしてほしい。（小学校）
相談内容の入力	<ul style="list-style-type: none"> きいてほしいボタンの下に、書きたい子は、相談したい内容を書く欄。（小学校） 他の先生に聞いてほしいを押している場合も見れるようにしていただきたいです。（中学校）
その他	<ul style="list-style-type: none"> もう少し、積み重ねが見られるようなアプリに変更して欲しい。児童生徒の中には、入力することが難しい子もいるので、そういった子が押したくなるようにする工夫を考えていく必要があります。児童生徒自身が、ここタを入力することの意味を感じられるような取組にしていく必要があると感じています。（小学校）

- ✓ 通知・リマインドに関してはヒアリングでも複数人より言及された
- ✓ 加えて、クラス全体の提出状況を児童生徒が確認できると、児童生徒間でのリマインドに繋がるという意見もあった
- ✓ 一方、ヒアリングでは入力項目が増えると入力率が下がる、教職員の確認負荷が増え、結局見落としに繋がるため、現行のままで、詳細は聞き取る形が良いのではという意見が聞かれた
- ✓ 加えて、ヒアリングでは月末に教職員からフィードバックできる仕組み、児童生徒への対応について簡単にメモできる仕組みがあると良いという意見も挙げられた

栃木県矢板市における実証

矢板市：体カテストデータの利活用に関する実証

取組

- 矢板市では、児童生徒の体力低下に課題意識があり、**児童生徒の体力向上**を目的にデータを活用している
- モデル校3校（小2校、中1校）で、体カテスト結果をアプリに入力し迅速に可視化することで、**体力づくり活動の改善**に活かしている
- アプリ上で、個々の児童生徒の体カテスト種目ごとの結果・総合結果が可視化され、教員は個々の児童生徒の結果・児童生徒は自身の結果を確認することができる。教員向けには、加えて、学年・クラスの平均値や、全国データとの比較も示される
- 加えて、各種目を改善するためのアドバイスや、そのために具体的に何を行うと良いかが動画で提示される

実証

- 体カテストデータの利活用により教員の授業改善に向けた**行動が変わったか**、児童生徒自身による**体力づくり活動に変化があったか**を教職員・児童生徒向けアンケートで検証した。アンケートは、モデル校3校にて実施し、中学校の体育科教員・小学校の担任の計9名・児童生徒397名より回答があった
- 加えて、そのようなアクションにつなげるためには、**取組上、何がポイントとなるか**をモデル校の体育科主任へのヒアリングで明らかにした

実証から分かったこと：取組のポイント

1. 教員 - 既存の授業改善の中にデータを検討する場を位置づける 児童生徒 - 学習活動にデータを見て振り返る場を組み込む

- まだ開始して間もない取組であり、能動的に授業改善に向けてデータを閲覧している教員は少ない
- 一方で、**教員間で体カテストの結果を踏まえて今後の授業等を検討する場**を設けている学校では、児童生徒の苦手な種目等にあわせた授業改善に取り組んでいる
- 児童生徒が自分の結果を振り返る取組を授業中に行った学校では、**授業最初の運動を児童生徒が自分の課題にあわせてカスタマイズする**という具体的なアクションに繋げている



2. データとアクションを一緒に示すことで改善に繋がりをやすくする

- 体カテスト結果と同時に、**苦手に取り組むためにおすすめの動画がクラスごと・児童生徒ごとに提示される**ことで、教員も児童生徒も次に何に取り組めばよいか分かる



実証から分かったこと：取組の効果※1

授業改善や児童生徒自身による体力づくり活動の改善へ効果

- 教員の**88%**が「授業や業間活動で、**何に重点**を置いた活動をすればよいか、具体的に検討できるようになった」と答えた
※ただし、n=9であることを留意
- 児童生徒※2の**66%**が「**自分の得意なこと・苦手なことを前よりも意識**して、体育の授業や業間活動に取り組むようになった」と答えた
- 教員の**78%**、児童生徒の**79%**が「体カテスト結果を活用するアプリは**体力づくりに役立っている**」と答えた

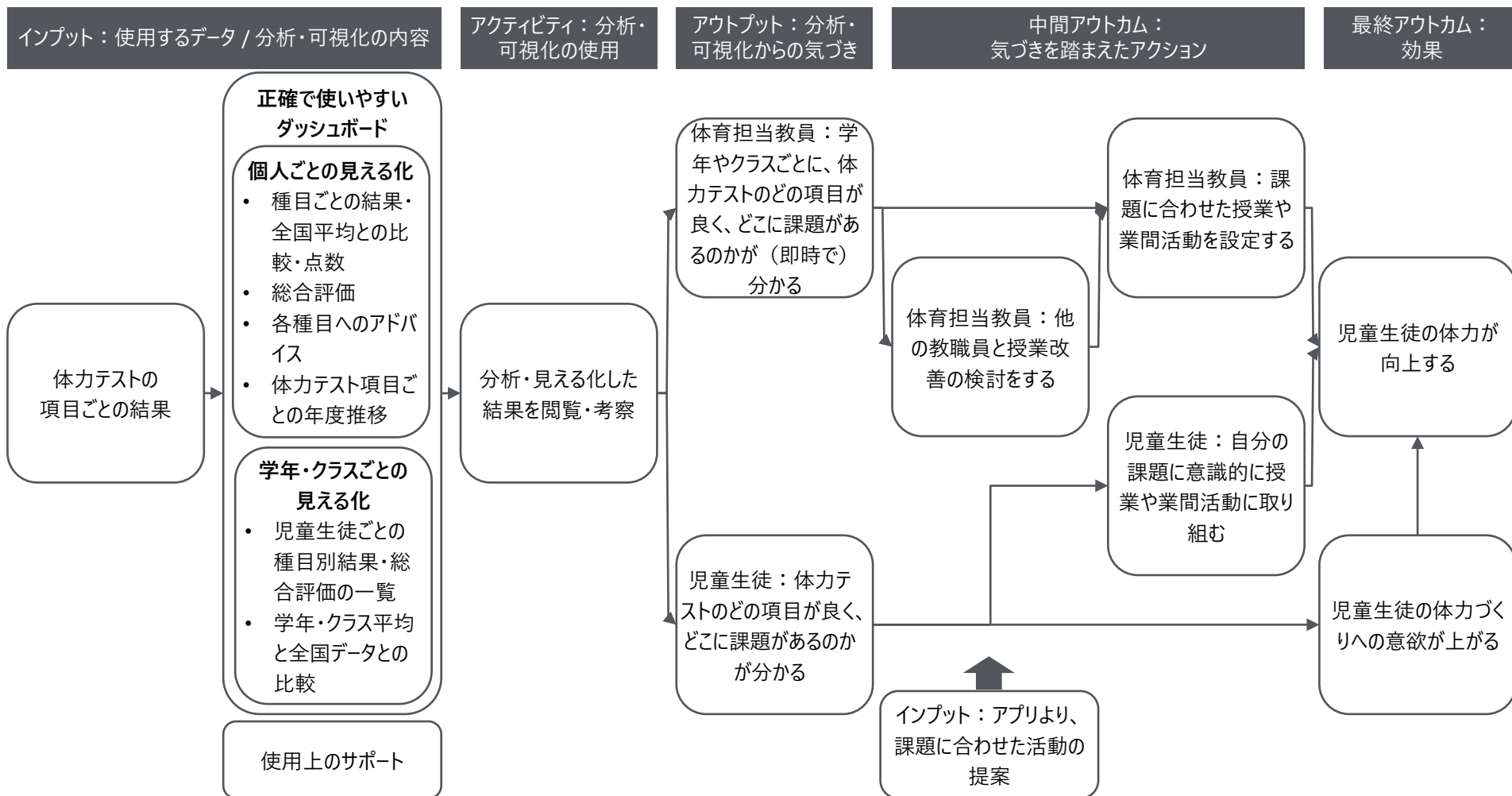
“**ヒアリングで聞かれた声**” 教員間で、課題となっているポイントを確認し、次年度の準備運動で重点的に取り組む内容等を体育部で話し合った”

実証から分かったこと：今後の取組の可能性

- 体カテストの結果が良い（≡運動が得意）児童生徒の方が、「データや動画が役立った」「どのような体力づくりに取り組むべきか分かった」「得意・苦手を意識して体力づくりに取り組むようになった」と答える傾向にある
※3ため、**運動が苦手な児童生徒も含め、児童生徒が効果的に体カテスト結果のデータを利活用できるようにする支援が必要である**

矢板市の取組における要素を、以下の通りロジックモデルに整理しました

ロジックモデル：栃木県矢板市



アンケート・ヒアリング対象

	対象校	対象者	時期
アンケート	モデル校3校	<ul style="list-style-type: none">● 教員（中学校の場合、体育科教員 / 小学校の場合、担任）：回答9名● 児童生徒（小4～中2）：回答397名	● 1月26日～2月13日
ヒアリング	モデル校3校	<ul style="list-style-type: none">● 教員（体育科主任）	● 2月中旬

アンケート・ヒアリング調査からは、教職員や児童生徒間で、データを見て振り返り、改善を考える場の重要性が改めて示唆されました

調査結果・示唆

1. 教職員間での検討の場が、授業改善に向けた活用を広げる可能性

- 教職員にて、80%程度が授業改善等に活用していると回答したものの、**能動的に授業改善のために閲覧している層は22%と限定的であった**
- ヒアリングからは、**教職員間で体力テストの結果を踏まえて今後の授業等を検討する場を明示的に設けることが重要**であることが示唆された（e.g., P.12で示す泉小の取組）

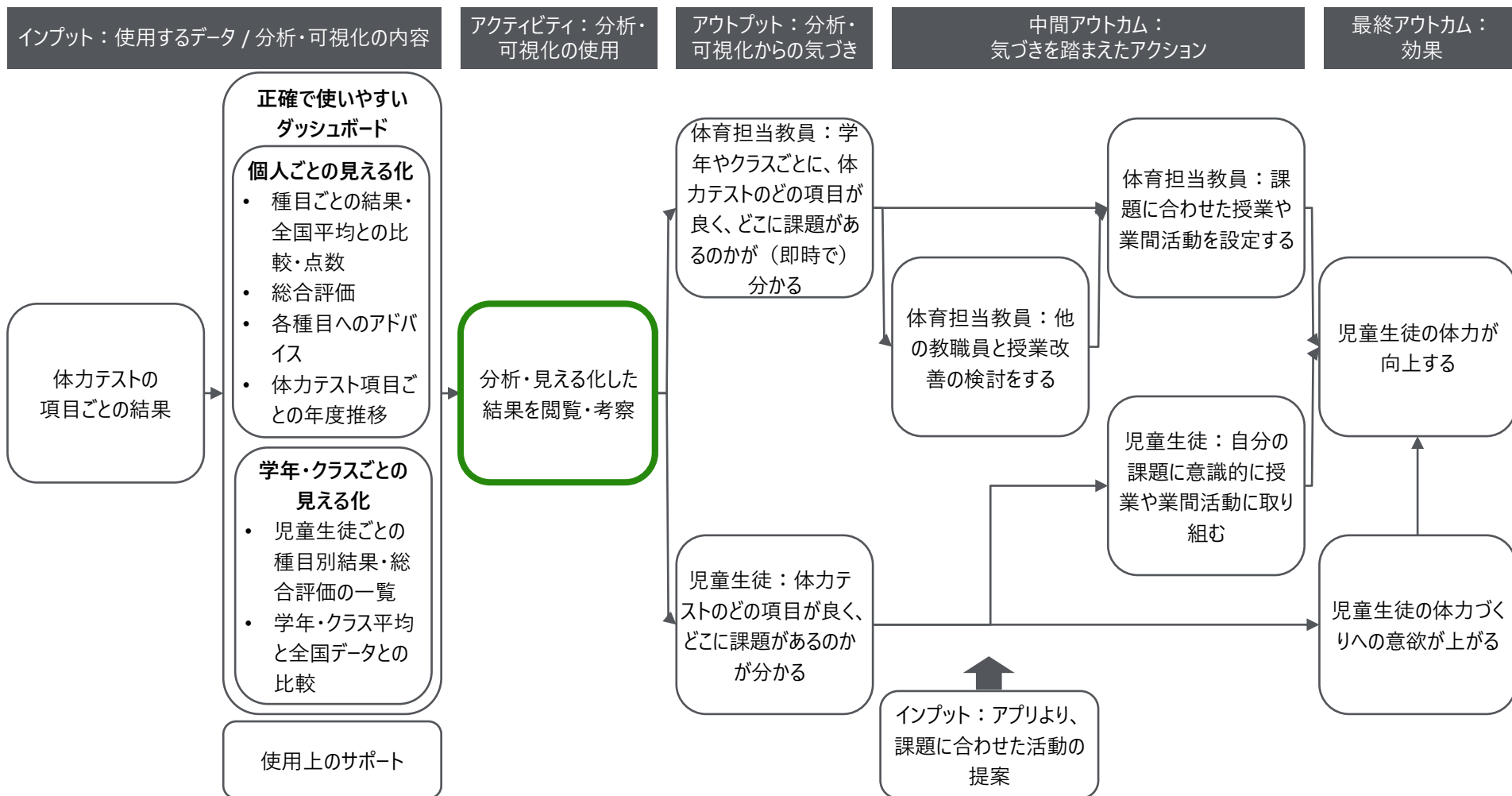
2. 運動が苦手な子も含め、児童生徒で活用する場を設ける必要性

- 児童生徒では、60～70%がどのような体力づくりに取り組むべきかの「気づき」や、得意・苦手を意識した活動といった「アクション」に繋がったと答えた
- 特に**体力テスト結果が良いほど、ALPHAが役立ち、これらの気づき・アクションにつながっていることが示唆された**
- また、ヒアリングからは、**児童生徒に関しても、自身の結果を振り返り、今後の改善を考える場を明示的に設けることが重要**であることが示唆された（e.g., P.12で示す矢板中の取組）

3. データとアクションを一緒に示すことによる教育データ利活用の促進

- ヒアリングでは、**体力テスト結果と、それを踏まえて何を行うべきかのアドバイス・動画と一緒に示されることがALPHAの良さ**として挙げられた
- これらのALPHA上で示されるデータ×アクションを、上述の教職員や児童生徒の振り返り・改善を考える場で利活用できると、今後の利活用がより促進されると考えられる

ロジックモデル



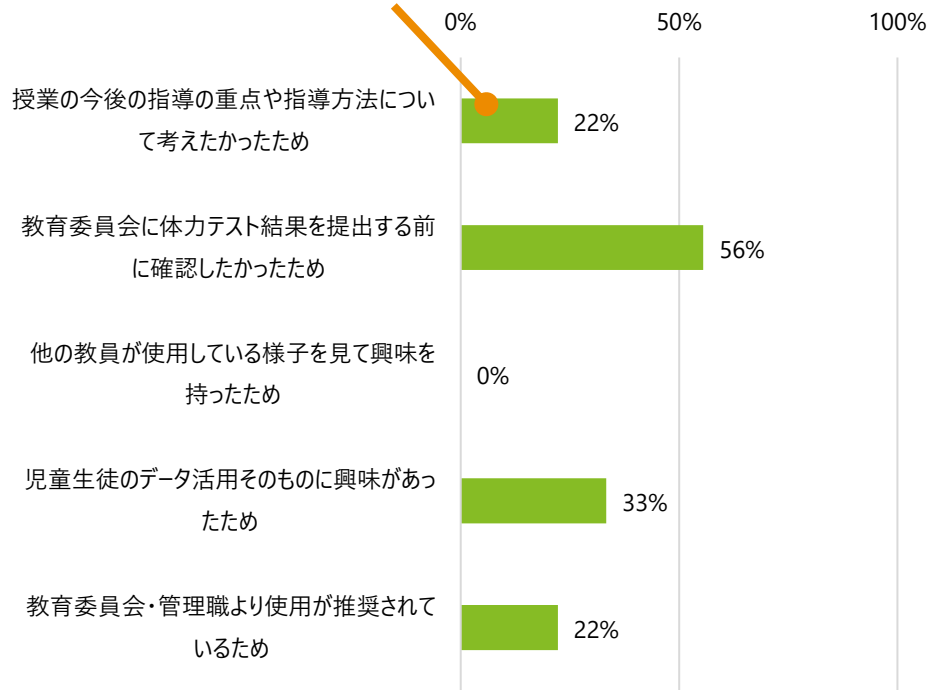
教職員において、指導改善に向けて閲覧している層は限定的でした

閲覧きっかけ

どのようなきっかけでALPHA上の体カテスト結果を見ましたか
(教職員)

教職員において、能動的に見ている層は限定的

※ヒアリングでも意識的に指導改善に生かしているという意見と、まだそのような使い方ができていないという意見が混在

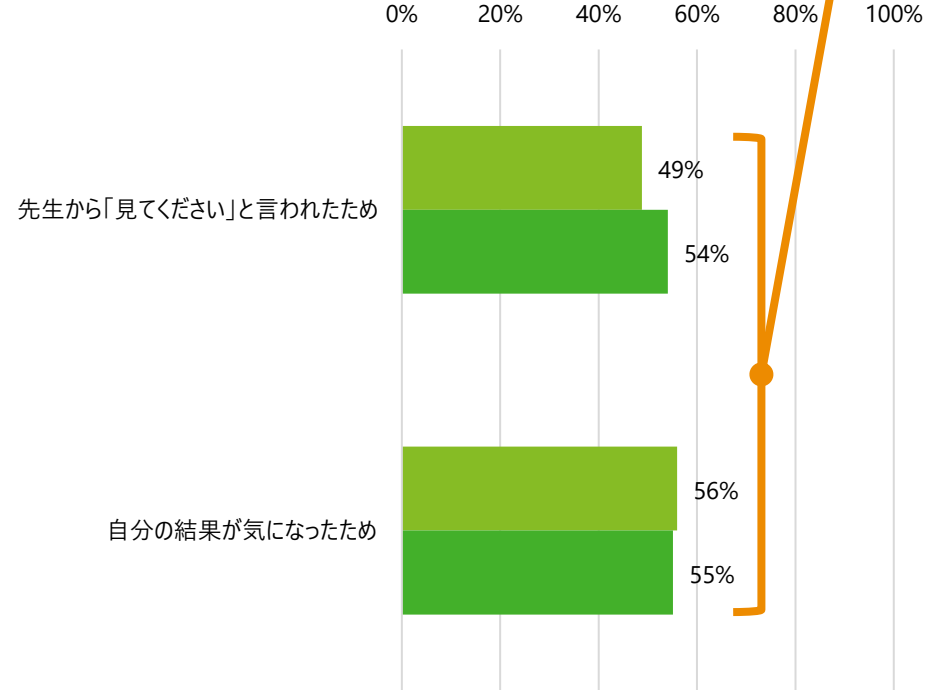


■ 教職員 (n=9)

同質問 (児童生徒)

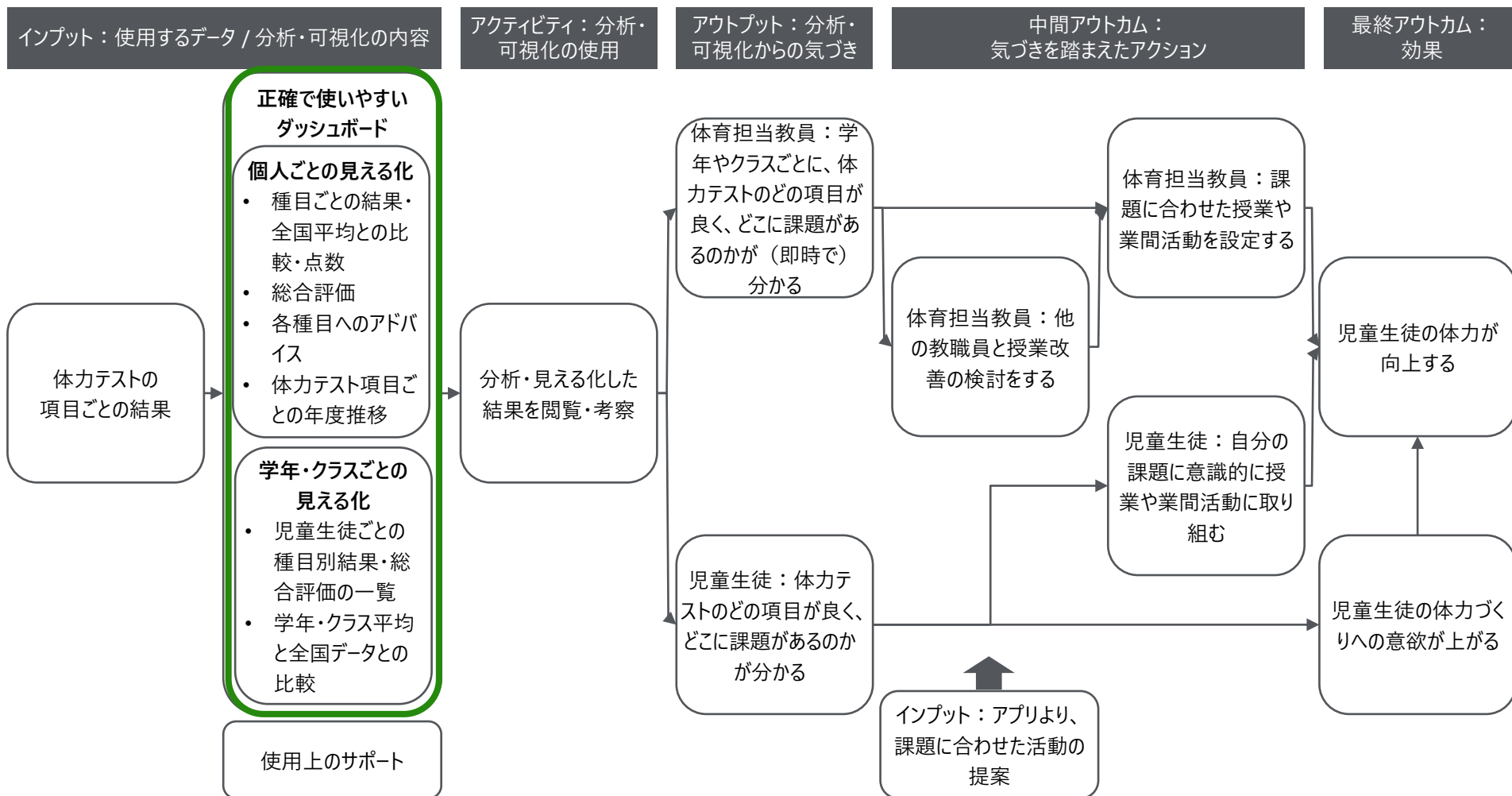
児童生徒においては、受動的に見ている層も主体的に見ている層も両方存在

※複数選択であることを留意、ほぼ全員がどちらかは選択した



■ 小学校 (n=211) ■ 中学校 (n=185)

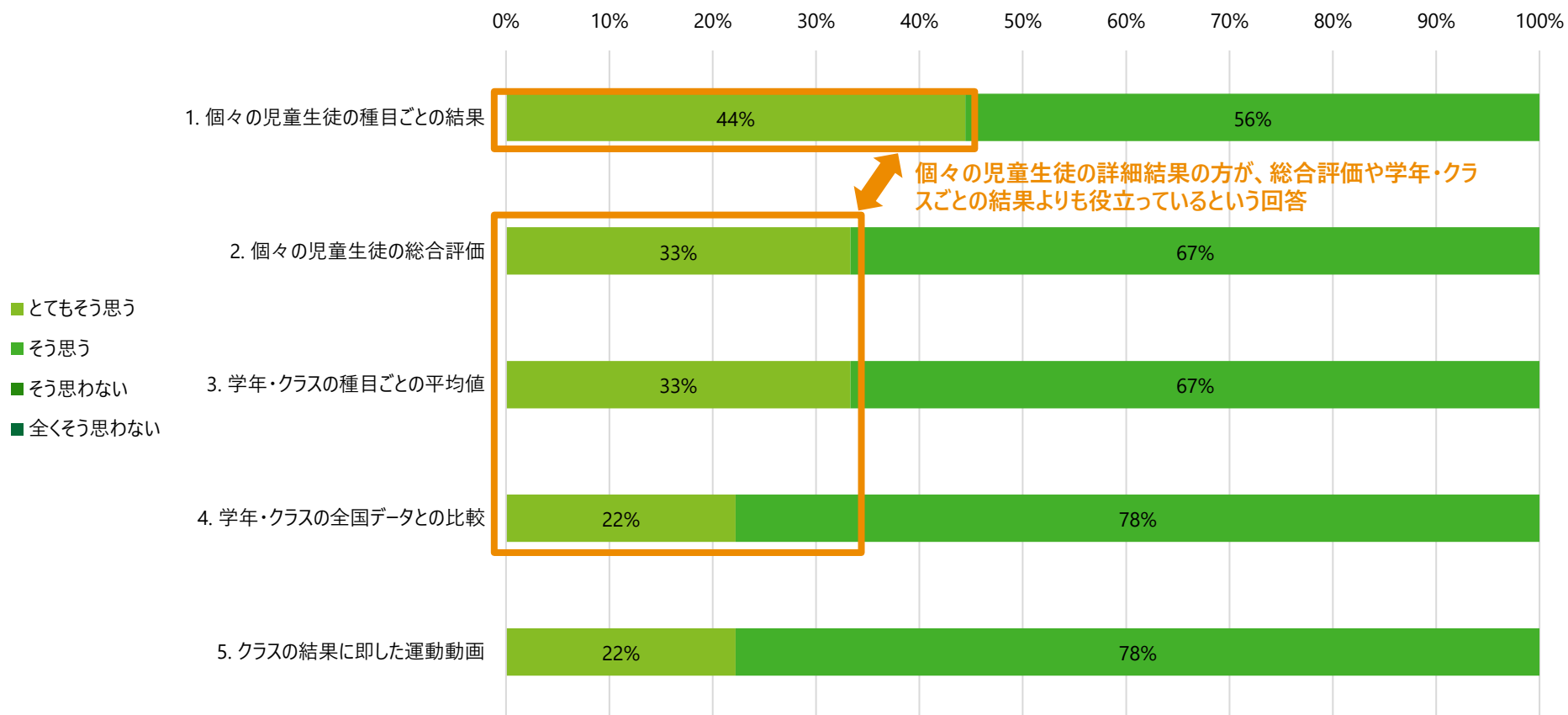
ロジックモデル



教職員の指導改善にとっては、個々の児童生徒の詳細結果の方が、総合評価や学年・クラスごとの結果よりも役立っているとのことです

役立ったデータ（教職員）

以下のデータは、児童生徒の体力状況の把握・授業や指導改善に役立ちましたか
(教職員 / n=9)



どのデータ・動画に関しても中学生の方が、やや利活用できている割合が高く、特にレーダーチャートでその傾向が見られました

役立ったデータ・動画（児童生徒）

以下のALPHA上の体カテストの結果や動画は自分の体力づくりに役立ちましたか（児童生徒）

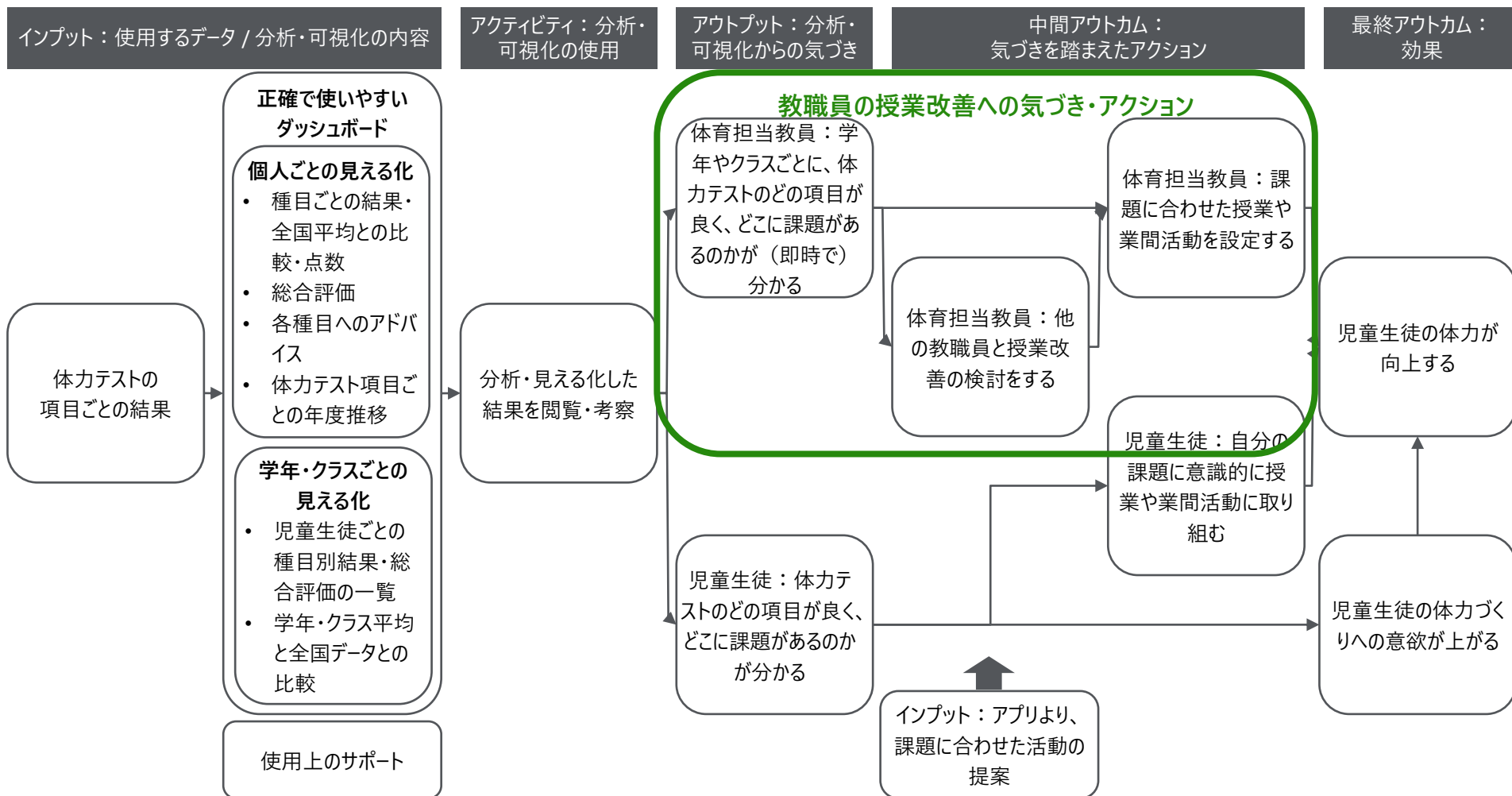
中学生の方がALPHA上のデータ・動画が「役立った」と答えた割合が高い

※ヒアリングにて、矢板中では授業内でALPHAの結果を振り返り、自分の補強活動を考えるという活動を行っているとのことだったため、当結果が学年のためなのか、このような活動のためなのかは一概に言えない

100% 50% 0% 50% 100%



ロジックモデル

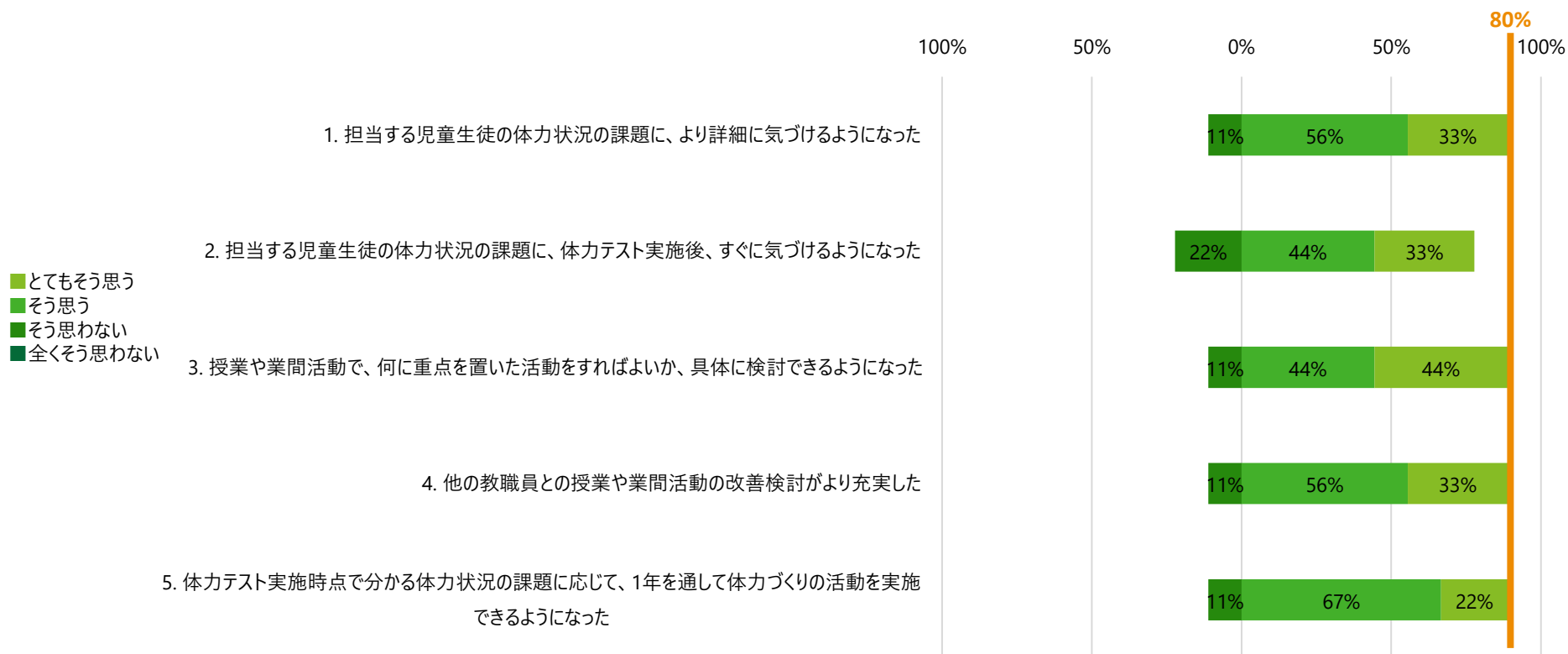


80%の教職員で体力状況の課題への気づき・改善アクションに繋がりました

気づき・アクション（教職員）

ALPHAの導入後、以下のような業務の質的な変化はありましたか（教職員 / n=9）

80%の教職員は体力状況の課題に気づき、授業や業間活動の改善についての具体的な他教職員との検討を行った
※一方、「閲覧きっかけ」では指導改善を目的に能動的に見ている層は限られ、ヒアリングでは授業改善での活用は限定的という声も聞かれたため、当該質問では同意・社会適応バイアスが働いている可能性がある



効果に繋げるには、データを見て、振り返り、改善行動を考える場を明示的に設けることの重要性が再確認されました

気づき・アクションへの効果 / 活用上のポイント（ヒアリングより）

気づき・アクションへの効果	
課題がある種目に着目して業間活動を行うといった 具体的なアクション につながっている	<ul style="list-style-type: none">投げる力が低いため、運動委員を中心として、昼休みを使って投げる力を高めるイベントを実施している（矢板小）各学年のレーダーチャートを確認し、教員間で、課題となっているポイントを確認している（種目間で特にスコアが低いものに着目）。次年度の準備運動で重点的に取り組む内容等を体育部で話し合った（泉小）
活用上のポイント	
教員で振り返って指導を検討する場があると活用が進む	教員同士で検討する場あり： <ul style="list-style-type: none">体力テストの結果が出た後、体育部で結果報告と相談をする場を設けている（泉小）（→上述の教員間での課題の確認・授業改善へ） 教員同士で検討する場なし： <ul style="list-style-type: none">体力テストの結果を踏まえた分析は、行っていない。今までの紙ベースでもできていなかった。各学年で「A評価が少ない」等の話はあったが、学校全体でそこまで話題に挙がっていない（矢板小）教職員の授業改善には活用できていない。時間的な要因もあるが、体育主任になったばかりであるため、まずはこれまで行ってきたことを踏襲していた。次年度以降は、ALPHAを活用しつつ体力向上の提案をやっていきたい。体育教員同士の話し合いも特に実施していない（矢板中）
児童生徒自身が自分の結果を振り返り、課題に対して取り組むことを考える場 を設けると良い	<ul style="list-style-type: none">体力テスト直後は、トレーニング動画をお手本に自分の課題を補強することを促す声かけを行い、児童が各々休み時間等で取り組んでいる。ただし、その後継続しているかは不明（泉小）3学期に2回目の測定を行った後、生徒が自分の課題を分析（e.g., 一つ上の評価に行くには、各種目をどのぐらい伸ばすべきか）して、ALPHAの動画を視聴し、自分で授業の最初に行う補強運動を検討するという取組を授業中に行っている（矢板中）

▶データを見て、振り返り、改善行動を考える場を明示的に設けることが、教員・児童生徒両者にとって重要であることが再確認された

▶市内で展開する際は、体育部で相談する場を設けている泉小や、生徒が自分の課題を分析している矢板中の取組もあわせて共有できるとよいのではないかと

ALPHAの良い点として、体力テストの結果に応じた動画が示される点等が挙げられました

ALPHAの良い点 / 課題（ヒアリングより）

上記の効果・活用に繋げるためにALPHAの良い点

結果だけでなく「結果を踏まえて何を行うべき」が出てくることが、教員にとっても児童生徒にとってもよい

- 体育の授業が得意ではない教員も動画を確認して授業に活かすことができた（矢板小）
- 動画があることにより子どもが動きをイメージしやすくなっており、助かっている（泉小）
 - ▶データとアクションを一緒に示す重要性が再確認された

経年比較を生かせる（と思われる）

- 過去の記録を確認できれば、子どもも主体的に課題となるポイントを伸ばす活動に取り組むことができたのではないか。モチベーションに繋がったりと思う（矢板小）

体力テストの結果提出の手間が削減された・結果を早く確認できるようになった

- 昨年度まで、3年生以上の児童は自ら紙に記入し、低学年は担任が記載していた。高学年でも書き直しをする児童もあり、担任が確認したのち体育主任が確認のうえ、1枚ずつの修正が必要だった。ALPHA導入により、手直しの作業を省くことができた（矢板小）
- 今までの紙ベースでの体力テスト結果共有は、結果が出るまでに時間がかかっており、6～7月に実施しても、結果を確認できるのは2学期の最初になっていた。ALPHAの導入でデータの共有が迅速になり、次年度に向けた検討が早くできるようになった（泉小）（→前頁の教員間での課題の確認・授業改善へ）

課題

特に低学年にアンケートを入力させる手間がある

- 体力テスト結果の入力よりも、アンケートの入力の負担が大きかった。特に低学年が何について聞かれているのか、理解できないため、入力にこずったと聞いている。来年度は、アンケートフォームで保護者が回答→担任がALPHAに取り込むという運用を検討している。端末上で保護者が直接入力するのはWifi環境がない家庭もあるため、実施しない（矢板小）

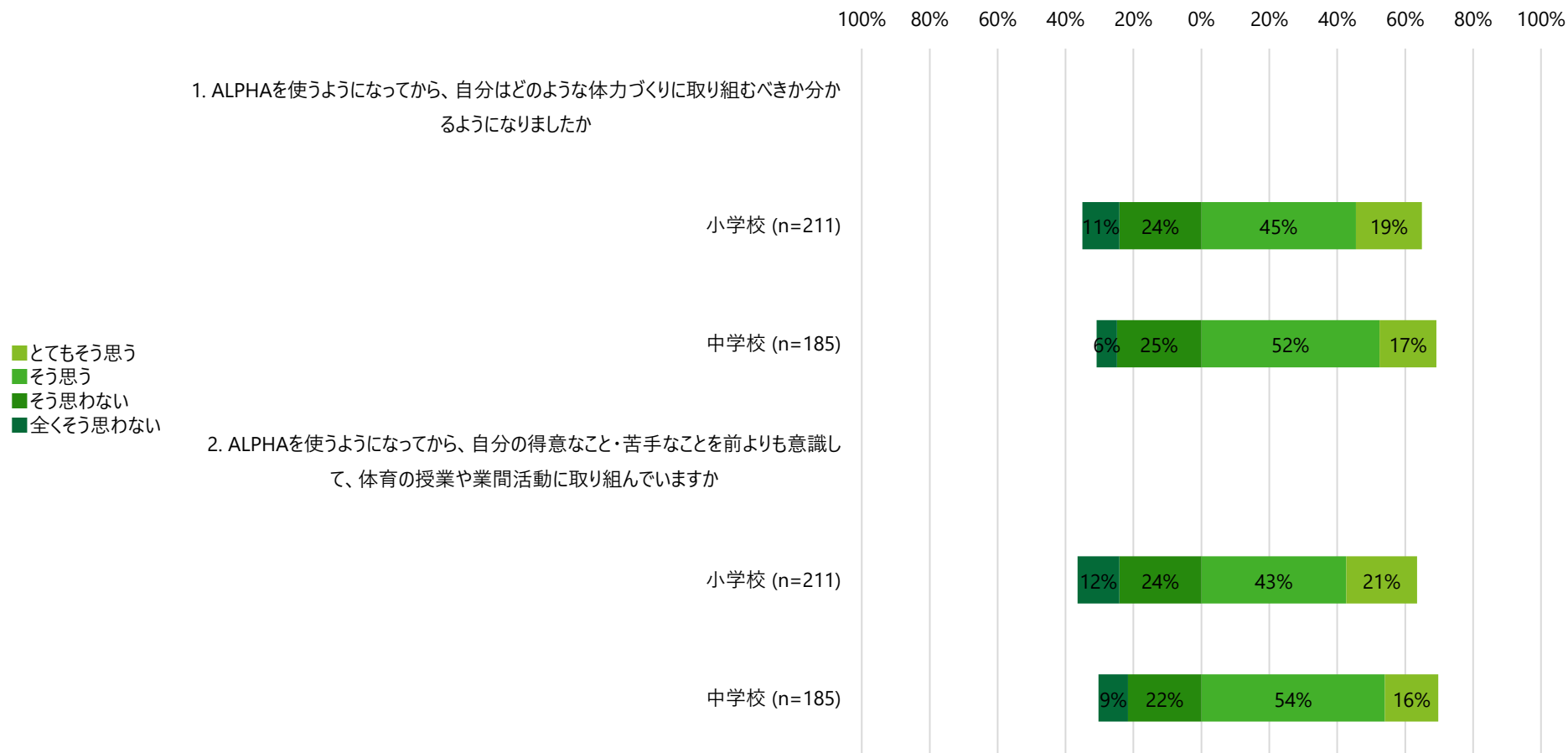
（体力づくり全般の課題として）生徒に目的意識が浸透していない

- 補強運動は実施しているが、目的が浸透していない。生徒の中には回数をサバ読む生徒や強度が足りない生徒もいる。補強運動への取り組みませ方や種類・難易度、運動が苦手な子どもへのアプローチも検討が必要だと認識している。生徒が楽しみながらできるように、毎回同じ運動ではなく、メインの種目に近いような補強運動ができればと思う。リズムなども組み込みながら継続していったときの効果は気になる（矢板中）

60～70%の児童生徒で、自分がどのような体力づくりに取り組むべきかの「気づき」や、得意・苦手を意識した活動といった「アクション」につながっています

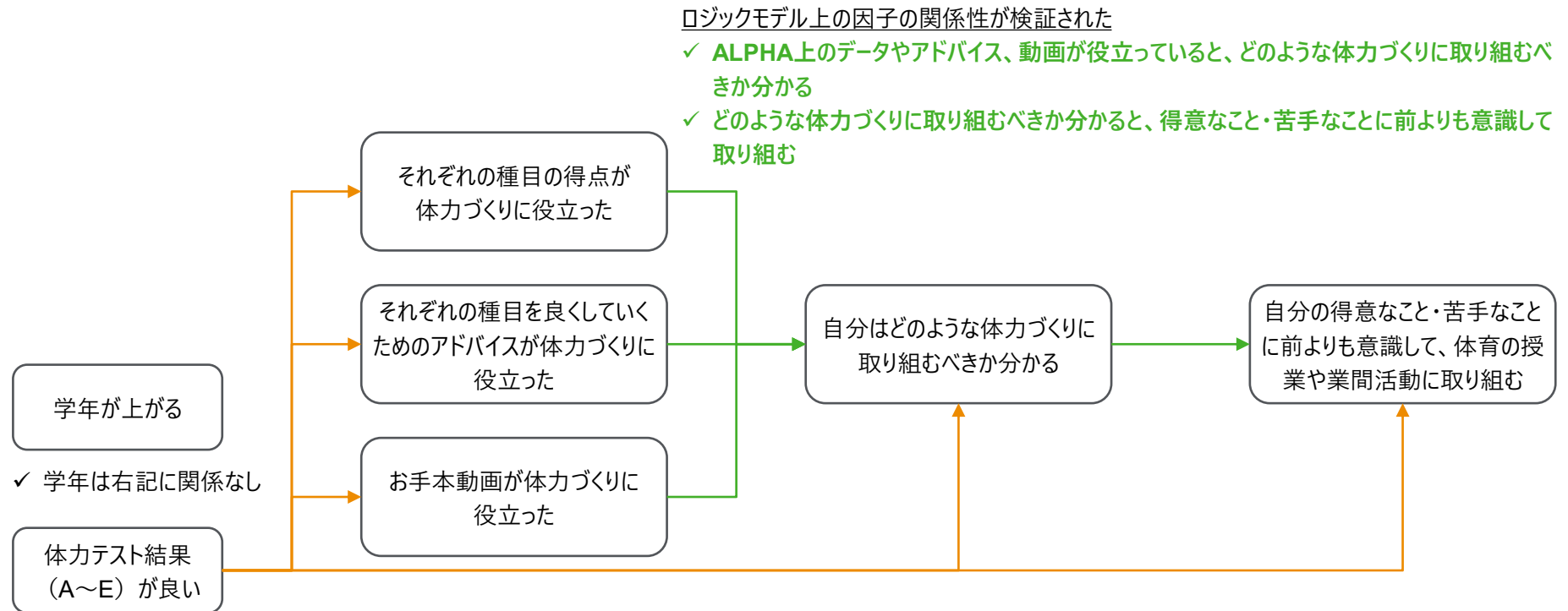
気づき・アクション（児童生徒）

ALPHAを使うようになってから、以下のような変化はありましたか（児童生徒）



パス分析では、ロジックモデルが一定、検証されたと共に、体力テストの結果が良いほど、ALPHAの役立ち度や、気づき・アクションにつながっていることが示唆されました

参考：パス分析の結果



体力テストの結果とALPHA役立ち度・気づき・アクションに相関があった

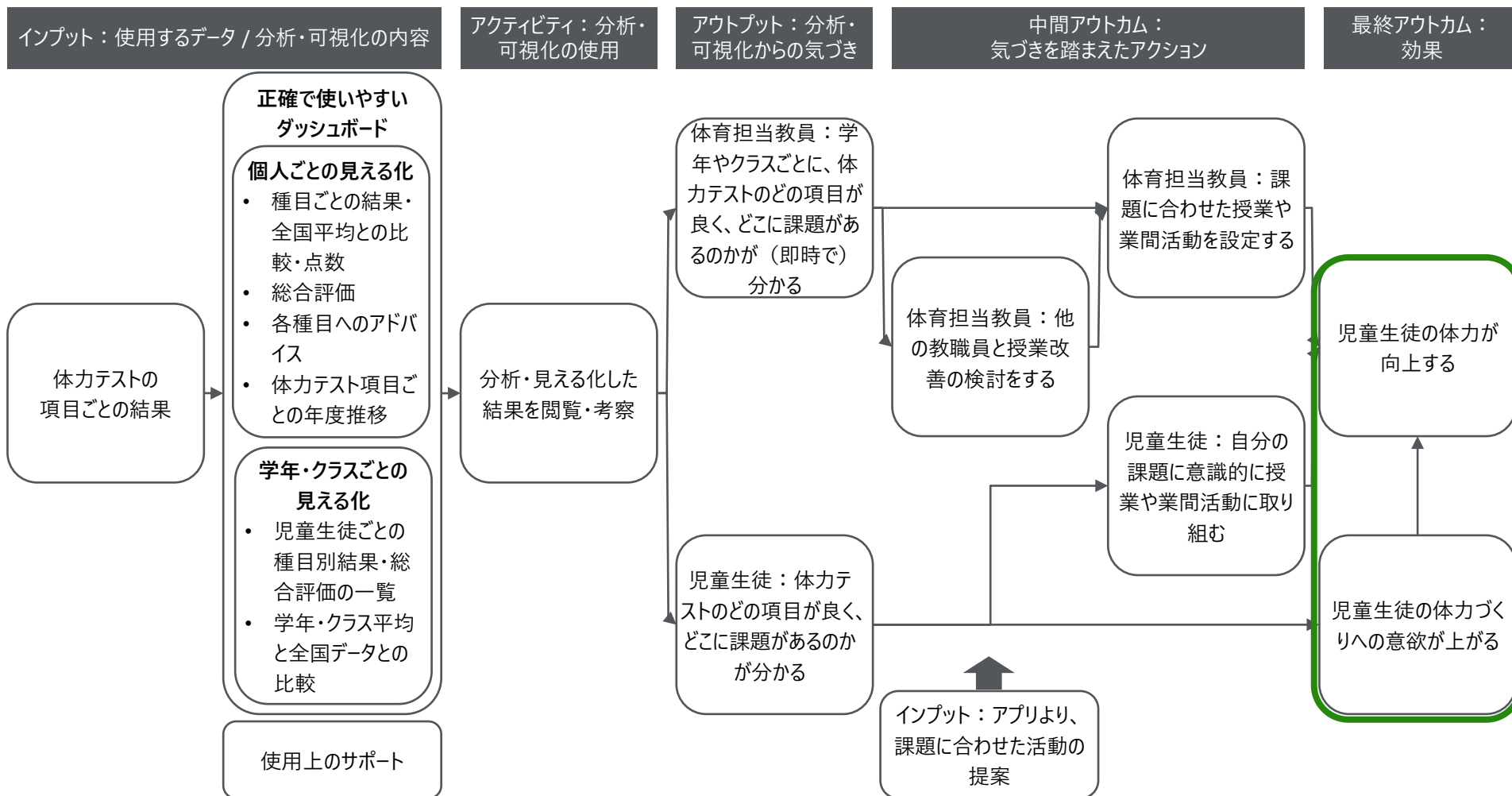
✓ 体力テスト結果が良いほど、ALPHA上のデータやアドバイス、動画が役立っている / どのような体力づくりに取り組むべきか分かる（気づき） / 得意・苦手を意識して取り組んでいる（アクション）

※一方、ヒアリングでは、運動が得意・苦手によってALPHAの使用状況や効果に違いはないという声が聞かれたため、引き続き要検証

▶運動が苦手な子にとっての効果的な活用方法・活用の促し方を検討できるとよいのではないかと

※限られたデータ内で相関を見ているのみのため「因果関係」を言い切ることはできないことを留意

ロジックモデル



70～80%の教職員や児童生徒が、ALPHAによる効果を感じており、教育データ利活用への期待を抱いています

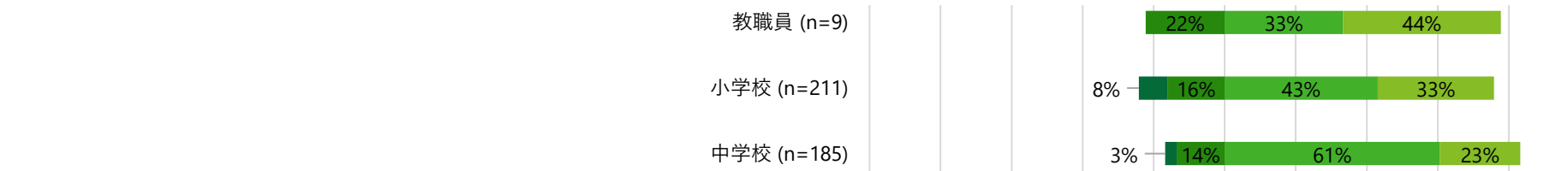
ALPHAによる効果・教育データ利活用への期待

以下のような効果はありますか

100% 80% 60% 40% 20% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

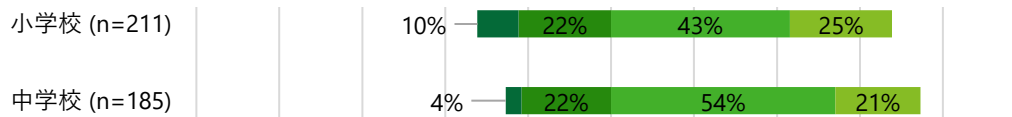
(教職員向け) ALPHAは、児童生徒の体力づくりに役立っていると思いますか

(児童生徒向け) ALPHAで、自分の体力テストの結果を振り返ることは、体力づくりに役立つと思いますが



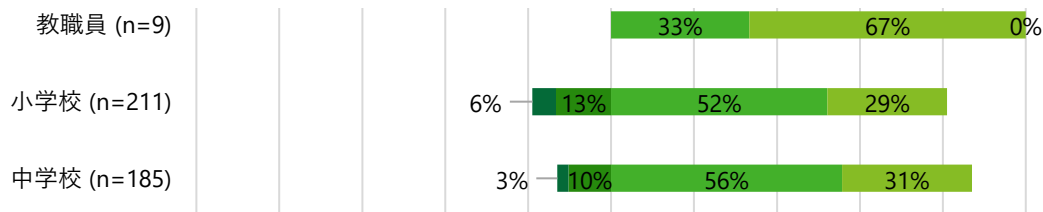
(児童生徒向け) ALPHAを使うようになってから、体力づくりをもっと頑張ろうとしていますか

- とてもそう思う
- そう思う
- そう思わない
- 全くそう思わない



(教職員向け) 教育データ利活用は、学校における教育活動を良くしていくのに役立つと思いますか

(児童生徒向け) 体力テストのデータやそれ以外の様々なデータ(教科のテストの結果など)が分かると、自分のよさや課題などに気づき、これからの生活や学習などを良くしていくのに役立つと思いますか



鹿児島県長島町における実証

長島町：授業の振り返りデータの利活用に関する実証

取組

- 長島町では、町内研究校を中心に、単元の目標を踏まえた振り返りを毎時間行い、**単元を通して、児童がどのように変容したか**を見て分かるようにし、**教員の授業改善**と共に、**児童の自律的な学び**に繋げている
- 単元目標に向けて、各授業でどのように学びを積み上げていくかを山に例え、「ラーニングマウンテン」という一枚のワークシートに表現する。「ラーニングマウンテン」上で、児童生徒が授業ごとに振り返りを記入する

実証

- 授業の振り返りデータの利活用により教員の授業改善に向けた**行動が変わったか**、児童生徒による**自身の学びの状況の俯瞰的理解に変化があったか**を教職員・児童生徒向けアンケートで検証した。アンケートは、町内研究校にて実施し、小学校の担任の計7名・児童生徒72名より回答があった
- 加えて、そのようなアクションにつなげるためには、**取組上、何がポイントとなるか**をラーニングマウンテンを授業で活用している教員へのヒアリングで明らかにした

実証から分かったこと：取組のポイント

1. 教員の課題・目的意識の下、導入する



- 多くの教員が**授業改善・振り返りの習慣化**のためにラーニングマウンテンを導入している
- 振り返りだけでなく、まずは**児童自身が単元目標に即して国語における言語活動を検討する**という工夫をされている事例もある
- **若手教員**でも、児童の実態に応じて、単元計画を立てられるよう支援するツールとしても有効であるという声が聞かれた

2. 振り返りを書くこと自体を目的にしない

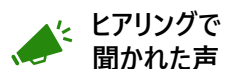


- (特に低学年において) ○○を行った、○○が難しかったという振り返りになりがちであるため、それを具体的に何に生かしていきたいのか、なぜ難しかったのかといった**一步踏み込んだ振り返りになるよう指導**する
- **振り返りが必要・不必要な授業を教員や児童が判断**する等、振り返りを書くことが形骸化しないように取り組んでいくことが必要である

実証から分かったこと：取組の効果※1

授業改善や児童による自身の学びの状況への理解、授業理解度の向上への効果

- 教員の**88%**が「単元目標の達成に繋げるために、**授業中に児童にどのような指導を行うべきか**、より具体的に検討し、実施できるようになった」と答えた
※ただし、n=7であることを留意
- 児童※2の**92%**が「**単元目標に向けて自分が何を学んだのか・何が課題なのかがより分かるようになった**」と答えた
- 教員の**86%**、児童の**93%**が「(振り返りデータを蓄積しつつ) 授業をふり返ることは、**授業をより良く理解する**のに役立っている」と答えた



ヒアリングで聞かれた声

“若手教員であっても、児童の実態に応じて単元計画を立てることができるようになった”

※1 2026年1月実施アンケートからの結果 (回答数：小学校担任の計7名 / 児童生徒72名)

※2 小1～小6

鹿児島県長島町では、ロイロノートを活用し、単元の見通し・振り返りによる授業改善・自律的な学びの実現に取り組んでいます

実証概要：鹿児島県長島町

概要

長島町では、町内研究校を中心に、単元の目標を踏まえた振り返りを毎時間行い、**単元を通して、児童生徒がどのように変容したか**を見て分かるようにしている。**教員の授業改善**と共に、**児童生徒の自律的な学び**に繋げている。

活用システム/ツール

- ロイロノート：タブレット上で使えるデジタルノート。児童生徒の思考を表現し、アウトプットを教員・児童生徒間で共有したりできる。

具体的な活用方法

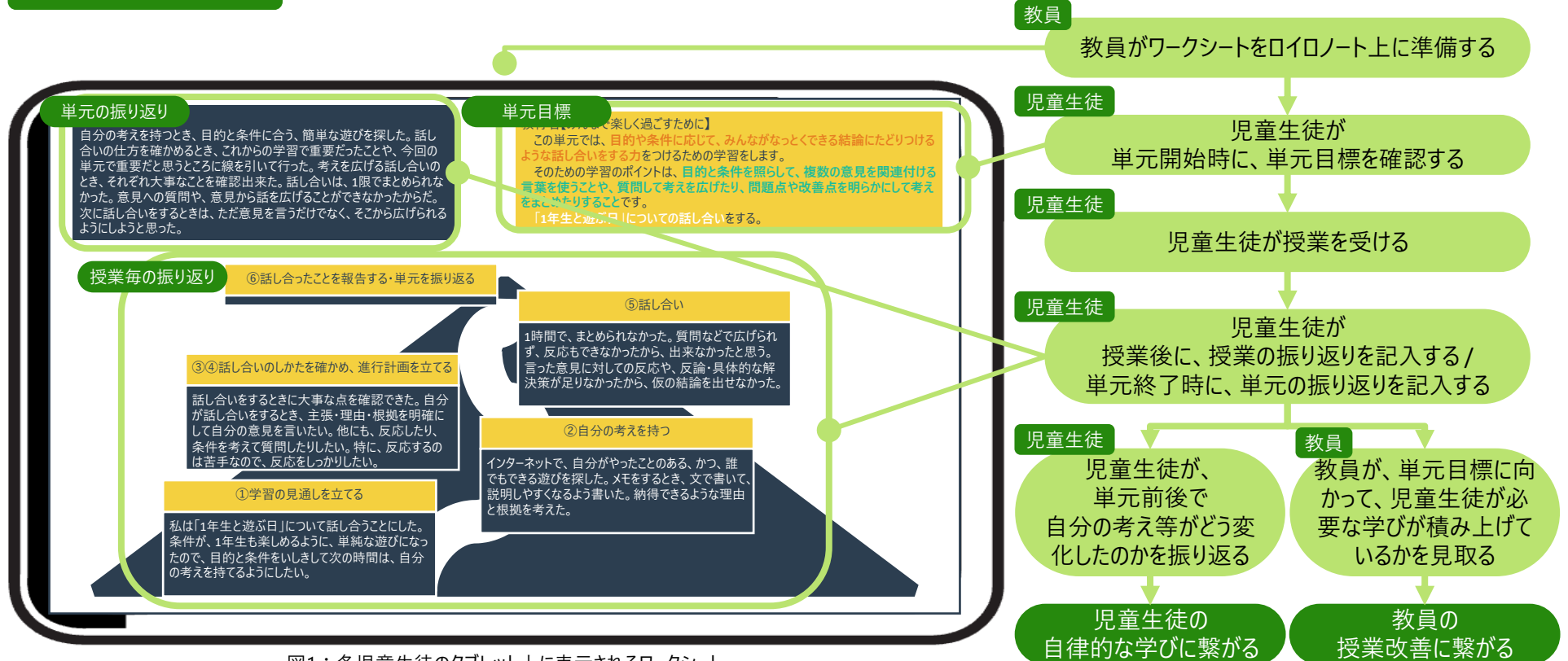


図1：各児童生徒のタブレット上に表示されるワークシート

長島町の取組における要素を、以下の通りロジックモデルに整理しました

ロジックモデル：鹿児島県長島町

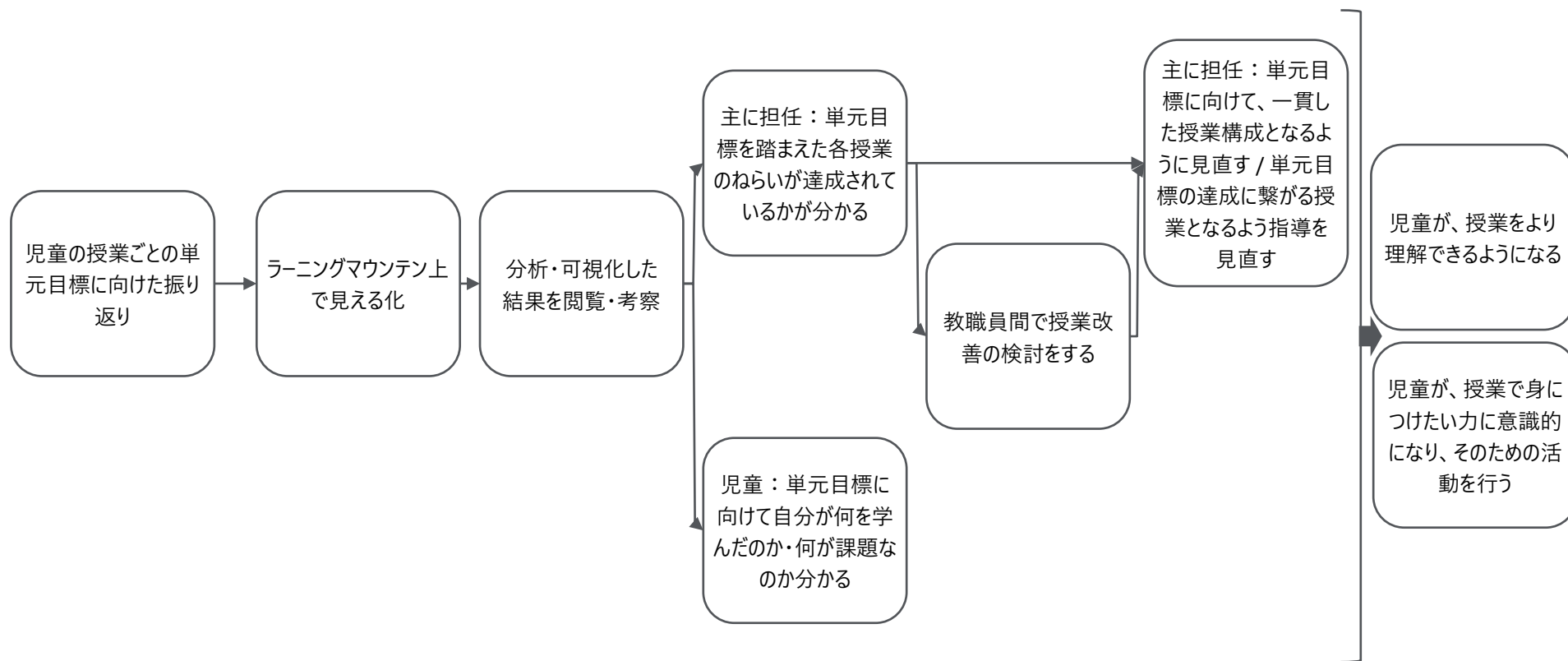
インプット：使用するデータ / 分析・可視化の内容

アクティビティ：分析・可視化の使用

アウトプット：分析・可視化からの気づき

中間アウトカム：気づきを踏まえたアクション

最終アウトカム：効果



アンケート・ヒアリング対象

	対象校	対象者	時期
アンケート	長島町立平尾小学校	<ul style="list-style-type: none">● ラーニングマウンテンを活用している教員（回答7名）● 児童（回答72名）	<ul style="list-style-type: none">● 2月2日～2月13日
ヒアリング		<ul style="list-style-type: none">● 研修主任● 担任	<ul style="list-style-type: none">● 2月下旬

アンケート・ヒアリング調査からは、教員や児童間で、データを見て振り返り、改善を考える場の重要性が改めて示唆されました

調査結果・示唆

1. 多くの教員が授業改善や振り返りの習慣化といった目的意識のもと導入

- アンケートより、多くの教員が**授業改善・振り返りの習慣化**のためにラーニングマウンテンを導入していることが分かった
- ヒアリングでも、**児童自身が見通しを持って活動に取り組むことができるよう活用している**という声が聞かれた

2. 教員・児童ともに多くの回答者が授業改善や児童の自己調整への効果を実感

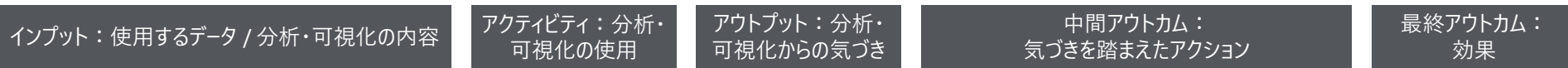
- 多くの教員が授業のねらいが達成されているかを見取る、授業の繋がりを検討するための効果を感じている。一方で、授業中の指導改善や、教職員間での授業改善の検討の充実に対しては、やや効果が落ちる
- 多くの児童が、ラーニングマウンテンによって自分の学びや課題をより分かるようになったと答えた
- **最終的な効果（授業理解度や、目標に意識的になること）へも、多くの児童や教員が効果を感じている**

3. 「振り返り」を形骸化させず続け、学年をまたいで効果的に続けるための工夫が必要

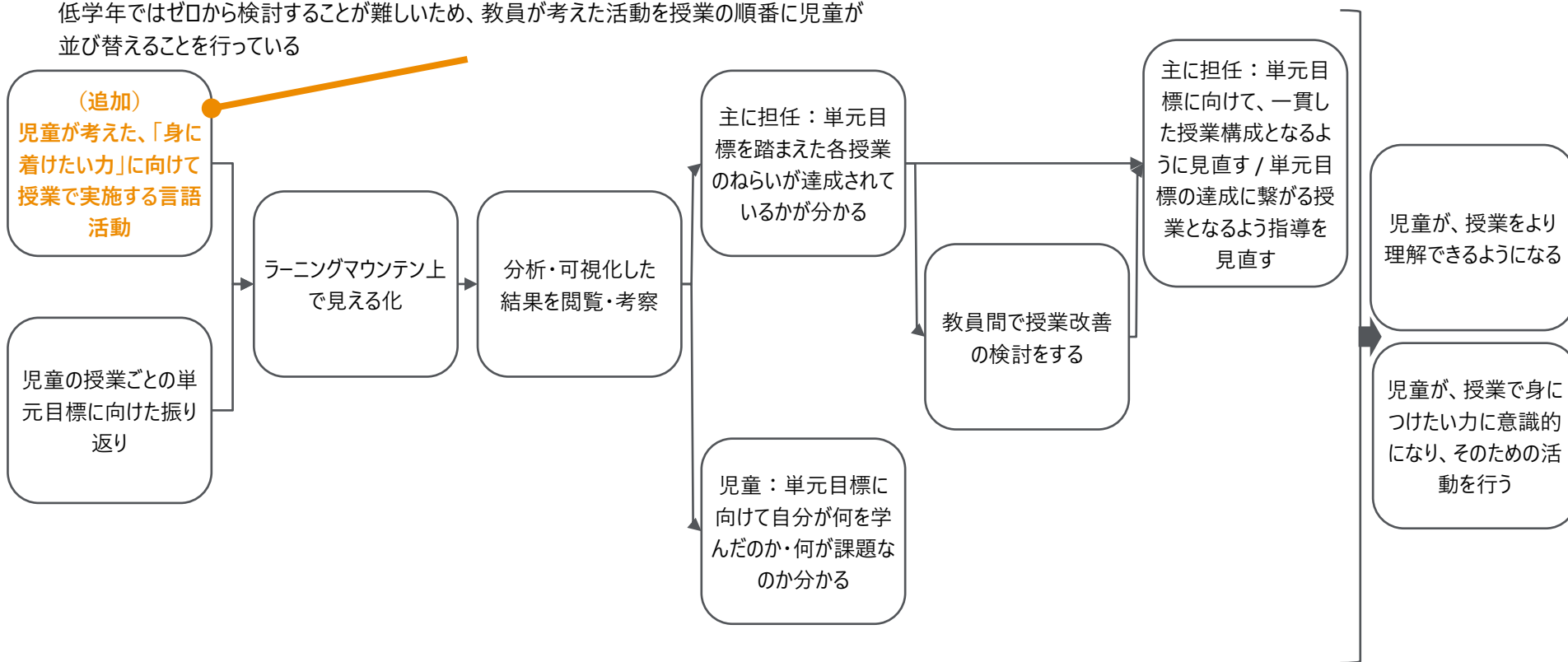
- アンケートでは、**児童にラーニングマウンテンの意図を理解させ、振り返りを行わせることが難しい**といった課題が示された。ヒアリングでも、**振り返りが表面的になることに対してより指導（観点や良い例の提示）が必要である、ラーニングマウンテンを書くこと自体を目的としないよう取り組んでいく必要がある**という声が聞かれた
- 加えて、ヒアリングでは、**学年をまたいで振り返りデータを蓄積し活用できるとよい**といったことが指摘された

ヒアリングを通して、ラーニングマウンテンは振り返りだけでなく、そもそも「身に着けたい力」に向けた活動を検討することから児童（高学年）が取り組んでいることが分かりました

ロジックモデル（修正）



ヒアリングを通して、高学年においては「身に着けたい力」に向けて授業で言語活動として何を実施するのかを単元始めに**児童自身が検討**することが分かった
低学年ではゼロから検討することが難しいため、教員が考えた活動を授業の順番に児童が並び替えることを行っている



ロジックモデル（修正）

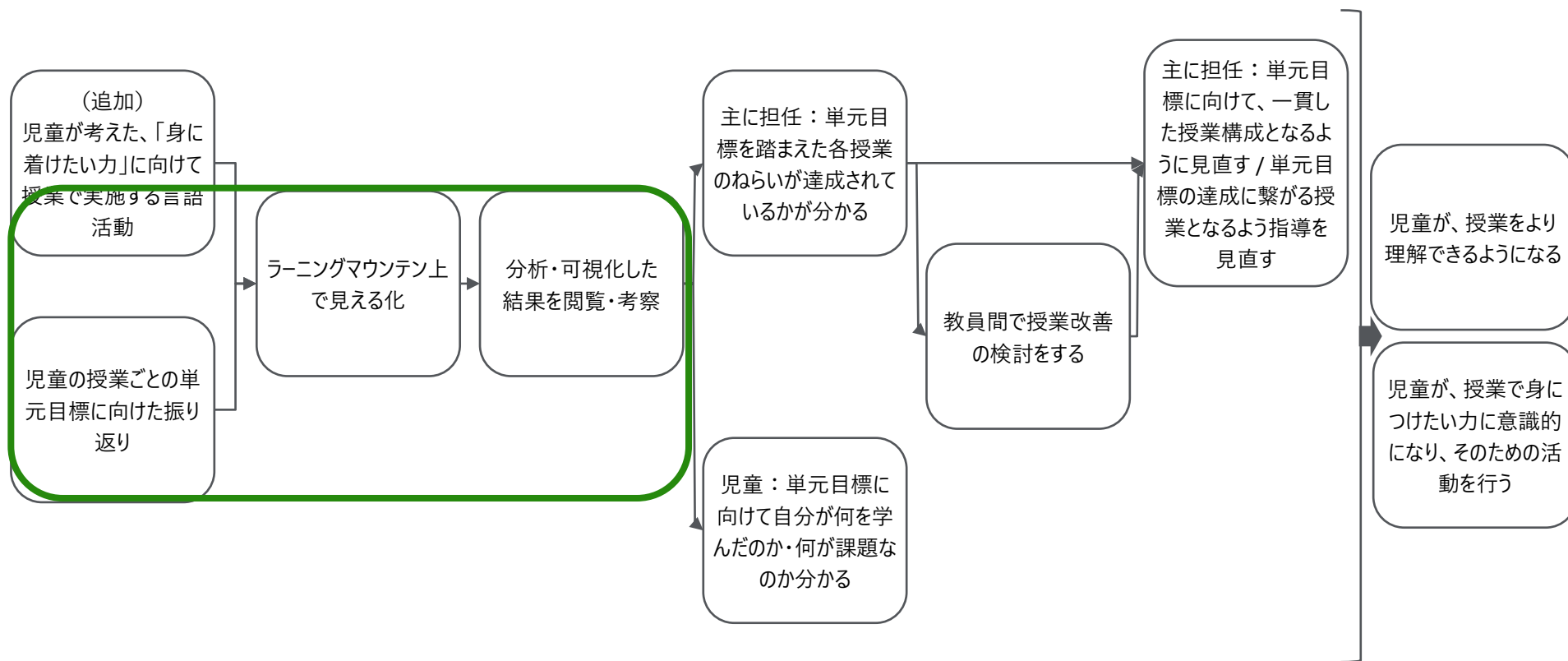
インプット：使用するデータ / 分析・可視化の内容

アクティビティ：分析・可視化の使用

アウトプット：分析・可視化からの気づき

中間アウトカム：
気づきを踏まえたアクション

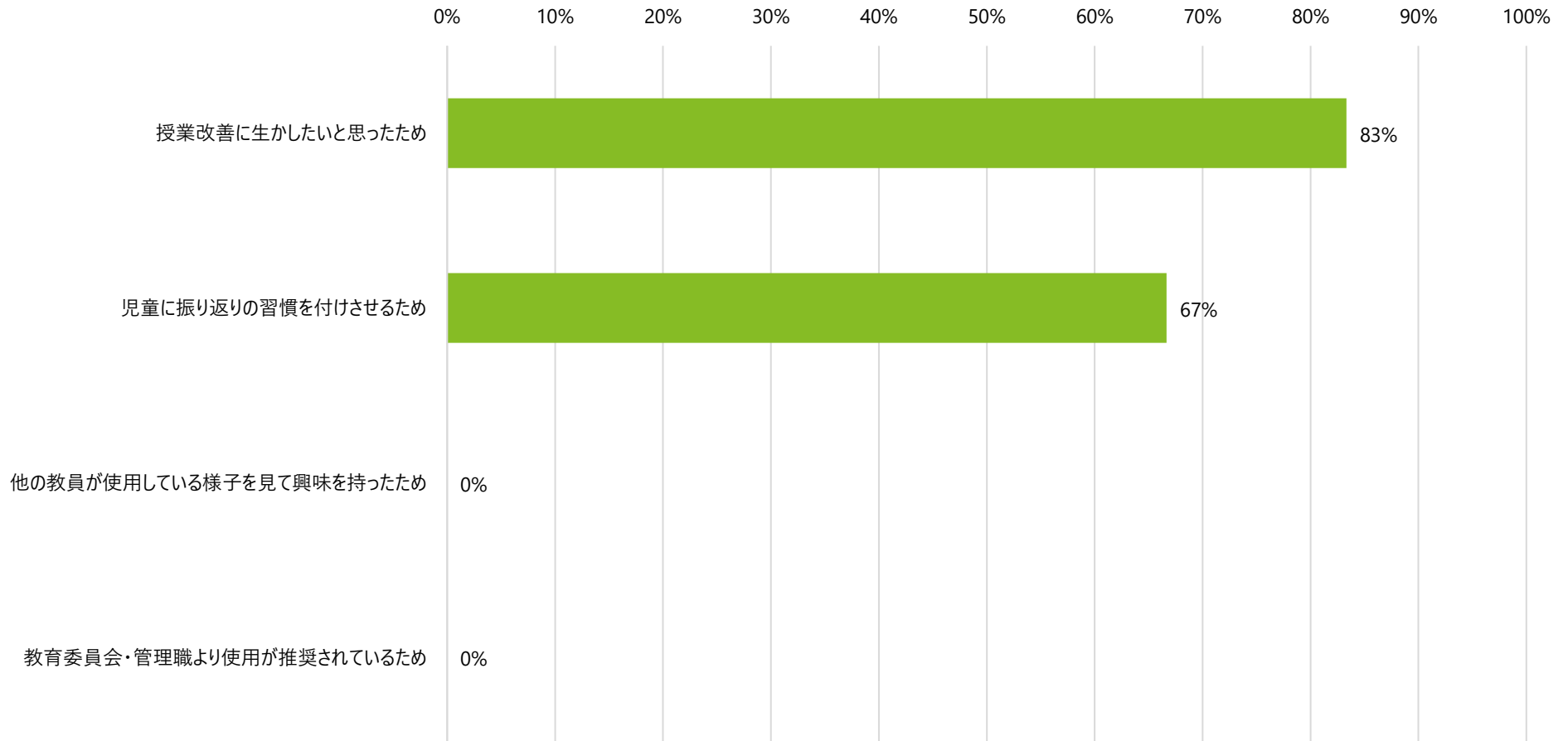
最終アウトカム：
効果



授業改善や振り返りの習慣といった目的意識のもと、教員がラーニングマウンテンを導入していることが分かりました

実施目的

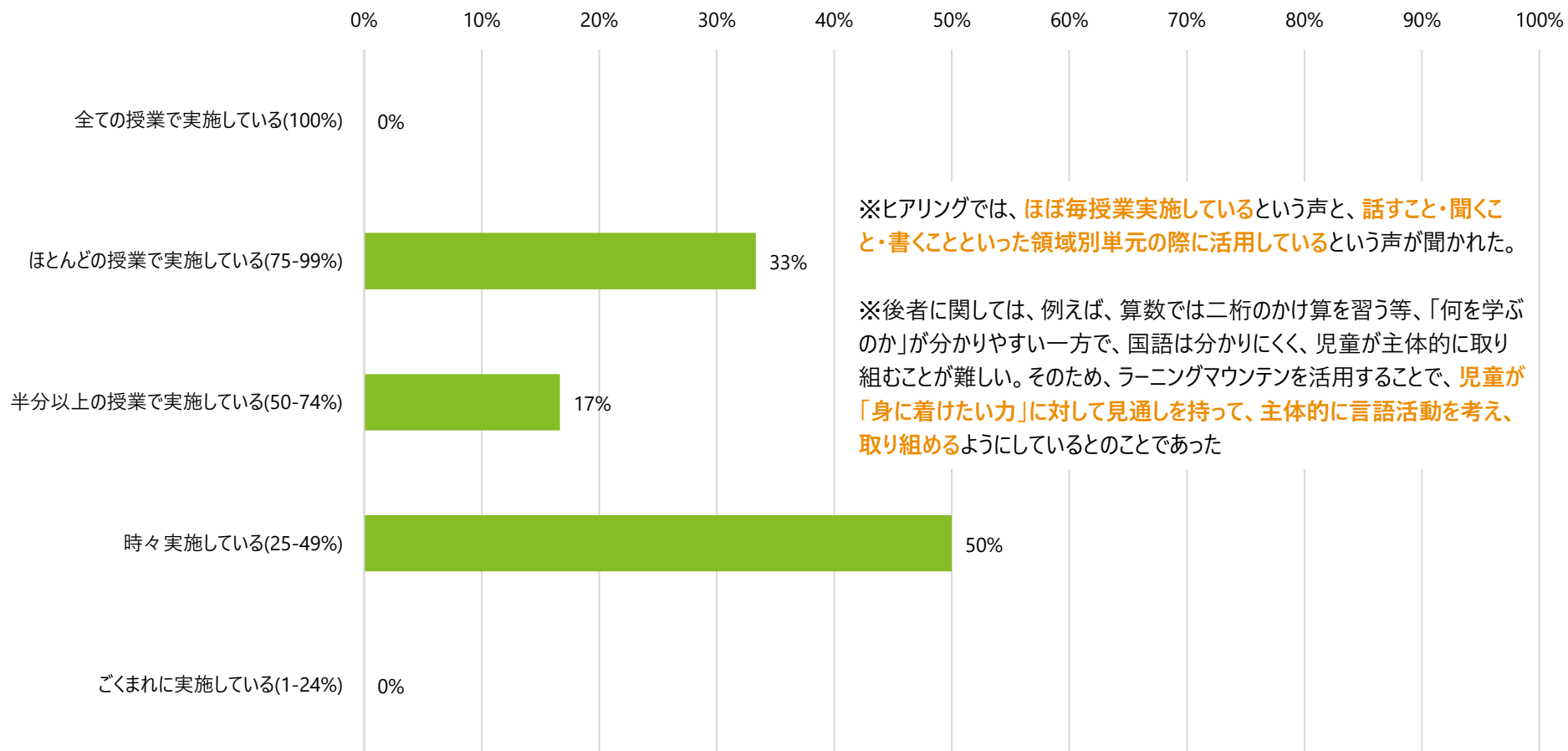
何を目的に、ラーニングマウンテンの取組を行っていますか（教員 n=8）



一定数以上の授業でラーニングマウンテンが実施されています

実施頻度

最近は、どれくらいの頻度で、ラーニングマウンテンの取組を行っていますか



ロジックモデル（修正）

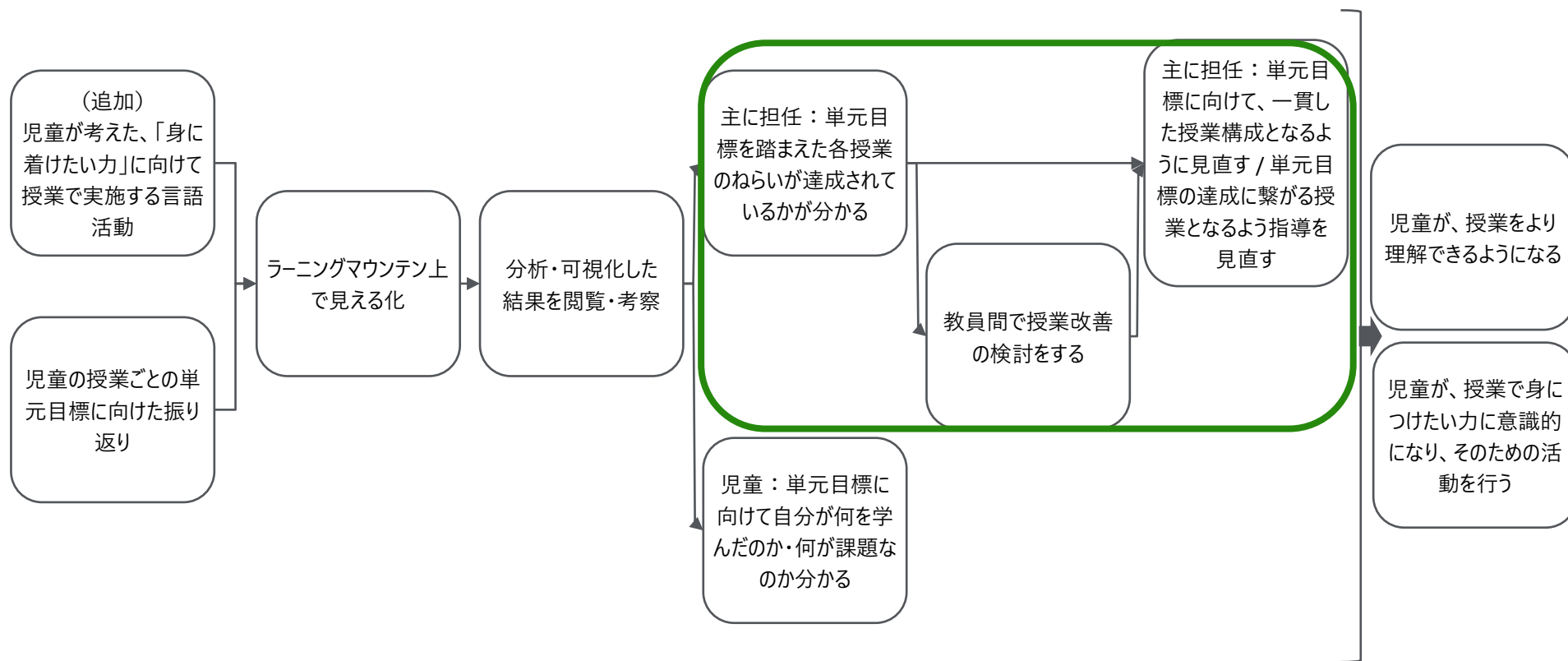
インプット：使用するデータ / 分析・可視化の内容

アクティビティ：分析・可視化の使用

アウトプット：分析・可視化からの気づき

中間アウトカム：気づきを踏まえたアクション

最終アウトカム：効果



授業中の指導改善や教員間での授業改善での効果はやや落ちますが、概ね、授業改善に向けてラーニングマウンテンは効果的に活用されています

授業改善に向けた効果

ラーニングマウンテンによる授業改善に向けた効果

100% 80% 60% 40% 20% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

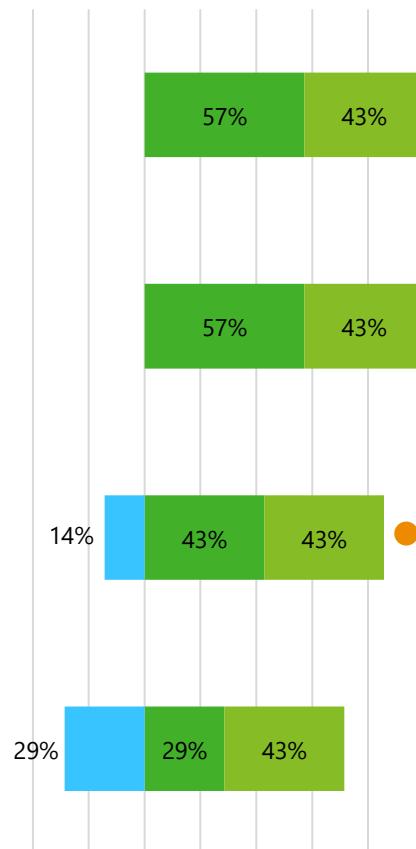
- とてもそう思う
- そう思う
- そう思わない
- まったくそう思わない

単元目標を踏まえた各授業のねらいが達成されているが、より分かるようになった

単元目標に即して各授業や授業の繋がりをどのように構成すべきか、より具体的に検討できるようになった

単元目標の達成に繋げるために、授業中に児童にどのような指導を行うべきか、より具体的に検討し、実施できるようになった

教職員間での授業改善の検討がより充実した



※ヒアリングでは、特に**若手教員**であっても、**児童の実態に応じて単元計画を立てることができる**という点がラーニングマウンテンの効果として挙げられた

※ヒアリングでは、ラーニングマウンテンに記載された内容を踏まえて、**教員が意図しためあてが伝わっていない**という場合、**不足していた点を深ぼる**といった活用方法が提示された

ロジックモデル（修正）

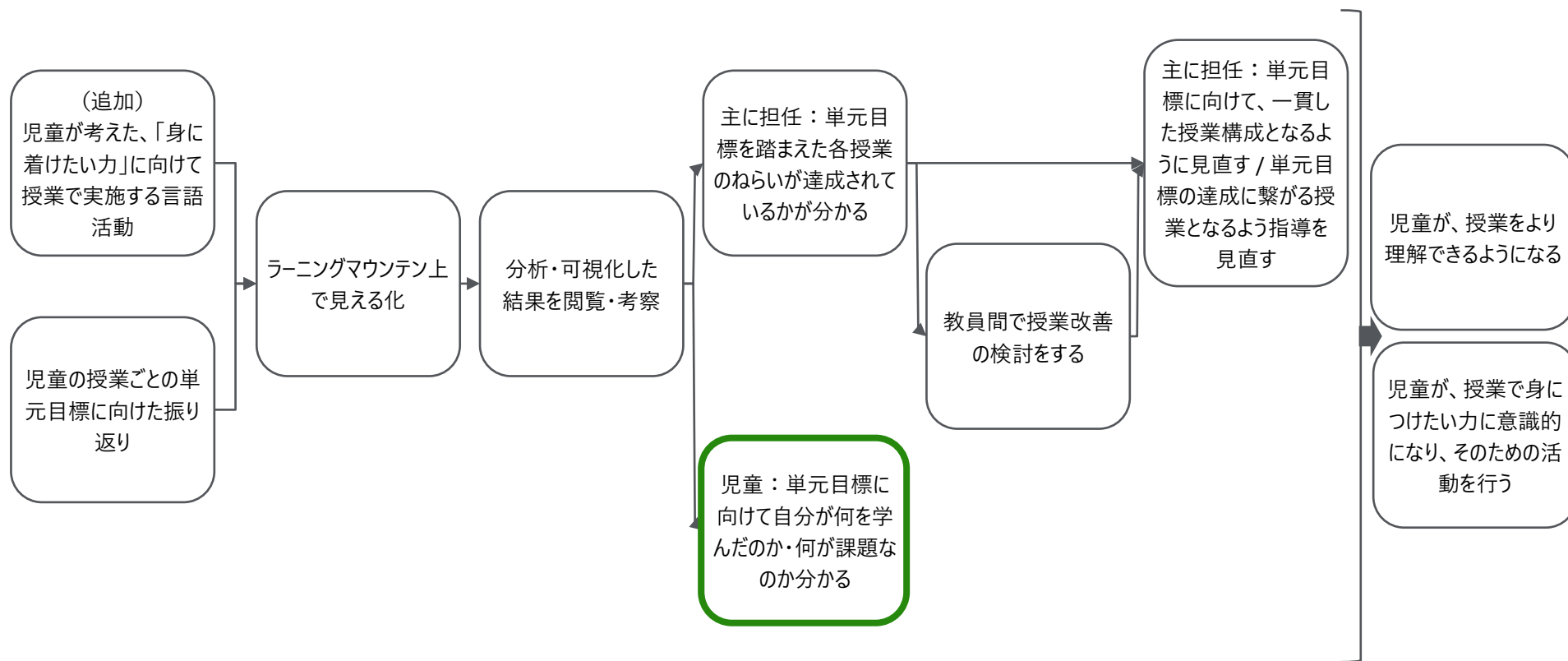
インプット：使用するデータ / 分析・可視化の内容

アクティビティ：分析・可視化の使用

アウトプット：分析・可視化からの気づき

中間アウトカム：
気づきを踏まえたアクション

最終アウトカム：
効果

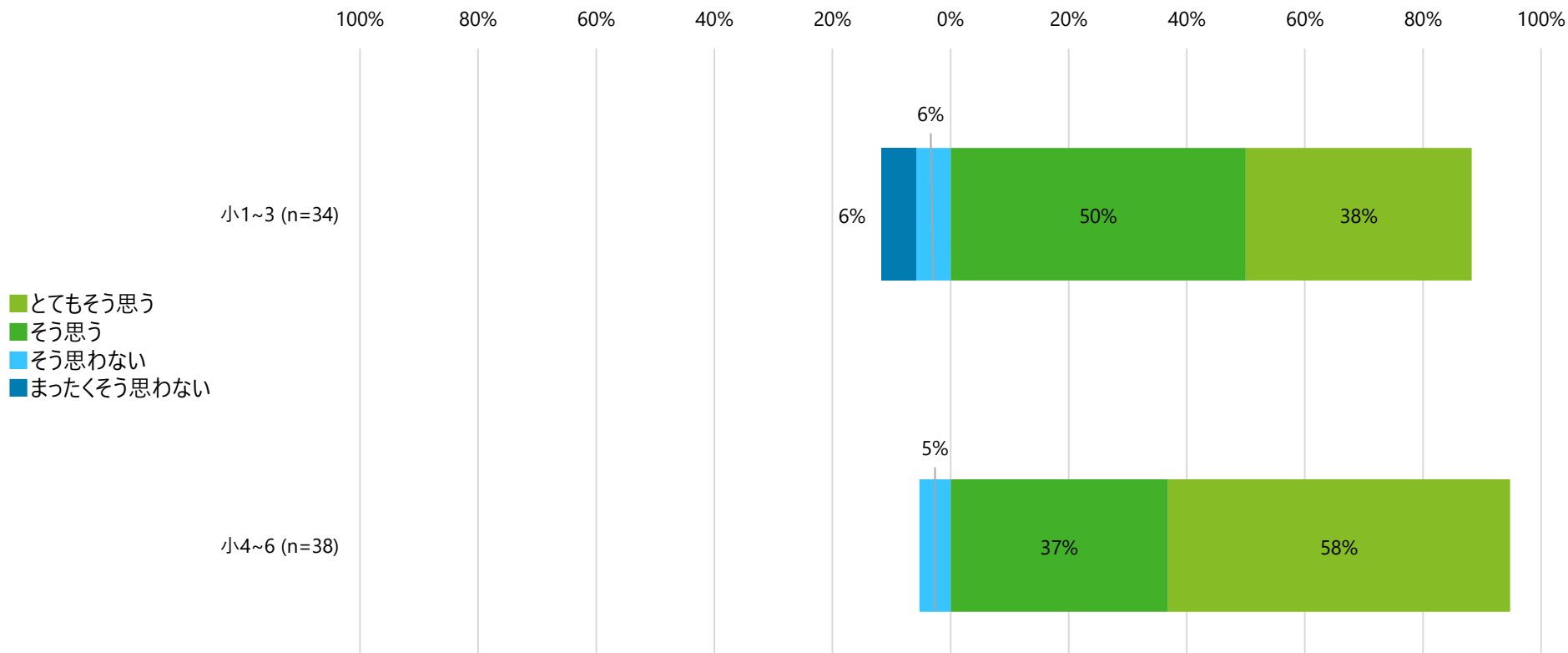


多くの児童が、ラーニングマウンテンによって自分の学びや課題をより分かるようになったと答えました

自己調整への効果

ラーニングマウンテンによる児童の自己調整への効果

ラーニングマウンテンを使うようになってから、単元目標に向けて自分が何を学んだのか・何が課題なのかがより分かるようになりましたか



※ヒアリングでは、他に、自分たちで言語活動を決めて取り組むことで、児童のモチベーションにつながっているという声も聞かれた

ロジックモデル（修正）

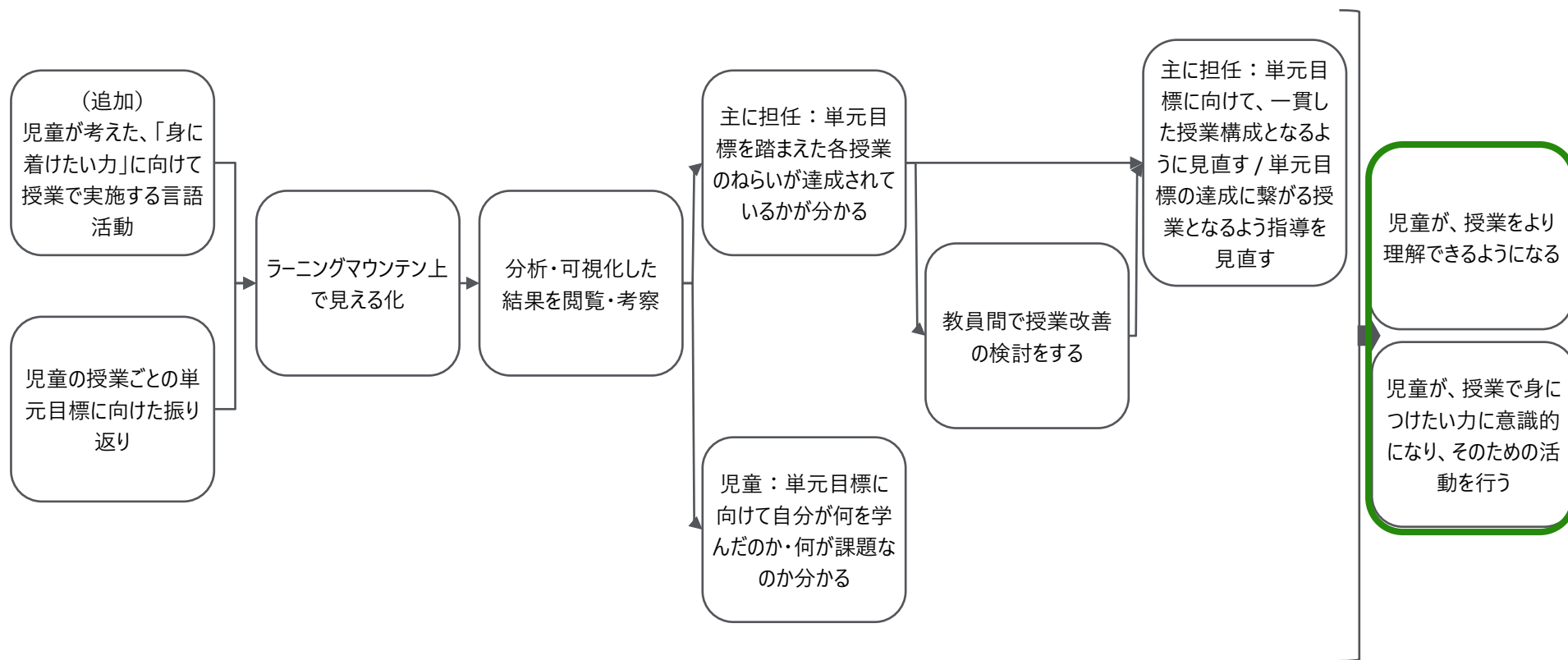
インプット：使用するデータ / 分析・可視化の内容

アクティビティ：分析・可視化の使用

アウトプット：分析・可視化からの気づき

中間アウトカム：
気づきを踏まえたアクション

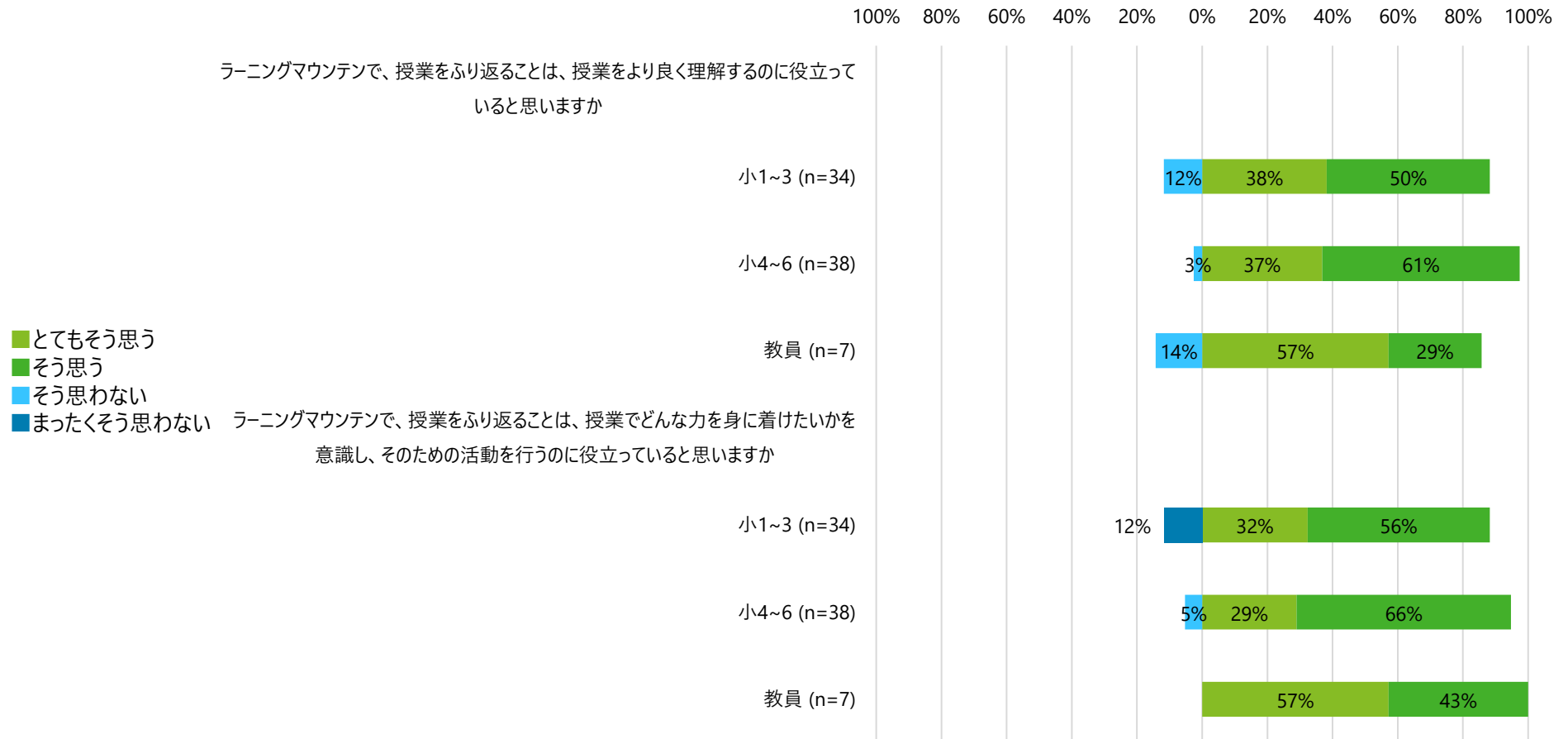
最終アウトカム：
効果



多くの児童や教員が、ラーニングマウンテンは授業理解度や、目標に意識的になることへ効果的だと答えました

授業理解度や目標意識への効果

ラーニングマウンテンによる授業理解度や目標意識への効果



児童にラーニングマウンテンの意図を理解させることや、記入内容の確認時間が必要なが課題として挙げられました

課題

ラーニングマウンテンの使用にあたって、課題や困ったことを全て選んでください

